

# 地理探究



大学入学共通テストに対応  
詳しい内容で理解を深める  
地理探究教科書の決定版！

令和5年度用  
(2023年度用)

**二宮書店**  
内容解説資料

この資料は、令和5年度用高等学校教科書の内容解説資料として、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則っております。

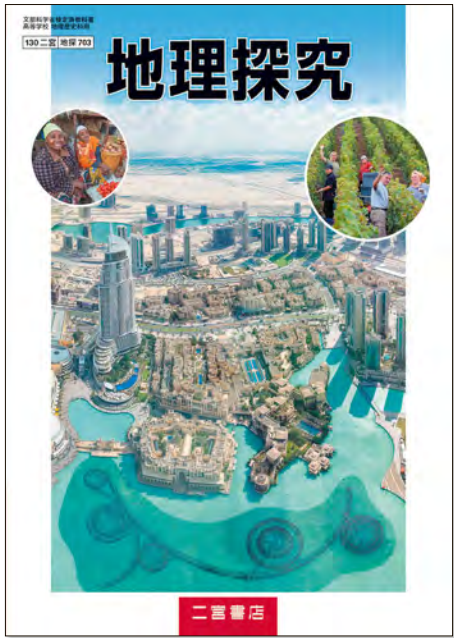
特色・内容紹介 → p.2-37

準拠  
ワークブック → p.38-39

デジタル教科書  
教師用指導書 → p.40-43

年間指導計画  
評価規準 → p.44-47

二宮書店



# 地理探究

130二宮 地探703  
B5判326頁／写真459点／図表633点

## 【代表者】

手塚 章 筑波大学名誉教授

## 【著作者】

伊藤 徹哉	立正大学教授	大伴 一成	東京都立八王子東高等学校主任教諭
小田 宏信	成蹊大学教授	菊池 美千世	前お茶の水女子大学附属高等学校副校長
呉羽 正昭	筑波大学教授	中山 秀晃	東京都立戸山高等学校主幹教諭
永田 成文	広島修道大学教授	松本 穂高	茨城県立竹園高等学校教諭
中西 僚太郎	筑波大学教授	松本 至巨	東京学芸大学附属高等学校教諭
山下 亜紀郎	筑波大学助教	株式会社 二宮書店	

## 【編集協力者】

目代 邦康	東北学院大学准教授	松永 謙	早稲田中学校・高等学校教諭
渡来 靖	立正大学教授	脇阪 義和	東海高等学校教諭
清沢 創一	長野県辰野高等学校教諭		
小河 泰貴	岡山県立岡山朝日高等学校教諭		

## Message

### 手塚 章（筑波大学名誉教授）

地理探究には、現代の世界や諸地域が直面している課題について、どのような対応が望ましいか、どのような解決法が可能かを、生徒みずから主体的に考える力を育成するという大きな目標があります。

そのため、本教科書では、こうした探究活動への手がかりとなる問いかけを、それぞれの章や節に数多く盛りこみました。温暖化や感染症などの地球的な課題から、身近な地域にかかわる問題まで、人々にとって重要な課題の多くは、自然・経済・文化など、さまざまな要因と結びついています。これらがどのように関連しあっているかを考えることが地理的な探究の眼目であって、そこに地理のおもしろさがあります。

しかし、地理的な探究活動の多くに、必ず明確なゴールがあるとは限りません。地理的な探究は、性急で安直な正解探しではありません。正しい道筋を探究するためには、多様な地理的事実を的確に整理し、理解することが前提になります。本教科書では、それを系統地理と地誌という二つの観点からまとめました。また、具体的な探究活動において、地図や地理情報の利用、地域調査の技術など、地理総合で身につけた地理的技能を活用することが重要なことはいふまでもありません。

### 松本 穂高（茨城県立竹園高等学校教諭）

自然環境や産業などを分野別に扱う系統地理の分野は、生徒の探究活動とよくマッチします。たとえば世界の気候と生活の関係を本書で詳しく学ぶと、同じ気候でも異なった生活がみられることに、生徒は疑問をもちます。そうした疑問に応えられるよう、本書では系統地理分野を現行の地理B教科書より分量的に充実させるとともに、探究活動を想定した「新しい視点」や「日本を知る」などの特設ページを、各単元について設けました。最新の動向や日本の現状を取り上げたこれらのページにより、生徒みずから探究できる姿が期待できます。

### 松本 至巨（東京学芸大学附属高等学校教諭）

高度に情報化の進んだグローバルな社会、そして地球温暖化など世界的な課題を抱えた時代を生きていくためには、世界各地の様子をより正確に知ることが大切です。地誌では、世界各地の特徴を基礎から学べるように内容を精選し、用語の説明や写真を充実させ、正確に実情を掴むために多くの統計に関する図表を掲載しました。特設ページの「海洋からみた世界のつながり」では、これまで扱いなかった海を通じた世界のつながりを読み解きます。日本はもちろん国際社会で活躍できる人材が育つよう、地理を中心とした総合的な力を養える構成になっています。

詳しくわかりやすく  
現代世界への理解を深める

1  
パンフ  
p.2-33

## 地理総合の基礎力を 地理探究の実践力へ！

- 系統地理のページ割合を、**6割に拡大**。系統の各分野と地誌の事例地域を体系的に整理し、相互に連携しあって理解が深まるよう構成しました。
- **系統地理**では、成因や空間的な規則性、相互の関連性、現在の動向などをわかりやすく解説。地理総合での学習事項を基盤に、理解を深めます。
- **地誌**では、変化の激しい国際情勢を反映し、12の地域の特色と課題をまとめました。地球的課題について自ら考察する力を育みます。

2  
パンフ  
p.34-37

## 共通テストに必要な 知識と技能を確実に！

- 現代世界を映し出す**新しい主題図**を多く取り入れました。共通テストの求める「思考力」「判断力」を育成します。
- 「**地理の技能**」ページを充実し（21テーマ）、地形図・主題図・写真を読み解く技能の習得をはかります。
- 各所に配置した二次元コードから、地理院地図やウェブページ、統計データといった探究活動をサポートするコンテンツを閲覧できます。

3  
パンフ  
新しい視点 p.14  
日本を知る p.16  
海洋 p.30

## 激動する世界をとらえる コラムと特設ページ！

- 地球温暖化やエネルギー問題、紛争や難民、感染症の広がりなど、地球的課題をSDGs（持続可能な開発目標）と関連づけて取り上げました。
- 特設ページ「**新しい視点**」、「**日本を知る**」、「**海洋からみた世界のつながり**」を新設。新しい切り口から最新事情を取り上げ、考察を深めます。

## ◀地理探究をトータルサポート▶



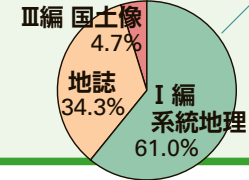
# 系統分野と地誌の学習が連携し、世界の現状と課題をよりわかりやすく示すよう構成しました

▶p.○-○は本パンフレットで取り上げているページです

全編のうち約6割が系統地理分野

教科書 編別のページ数割合

世界的な視野から人々を取り巻く環境の多様性や国際情勢をとらえ、現代世界のかかえる地球的な課題の解決を担う力を養成します。



## 第I編 現代世界の系統地理的考察 ▶p.6-23

### 第1章 自然環境

- 1 地形 ..... 8
  - 1 世界の地形と地形をつくる力 ..... 8
  - 2 プレートの運動が地形におよぼす影響 ..... ▶p.6-7
  - 3 地震と火山 ..... 12
  - 4 造山運動と世界の陸地 ..... 14
  - 5 河川がつくりだす地形 ..... 16
  - 6 海岸にみられる地形 ..... 20
  - 7 さまざまな環境で形成される地形 ..... 22
- 2 気候と生態系 ..... 30
  - 1 水の循環と利用 ..... 30
  - 2 海洋の循環 ..... 32
  - 3 大気の大循環と気候 ..... 34
  - 4 気候の地域性 ..... ▶p.8-9
  - 5 植生と土壌 ..... 38
  - ▶新しい視点 自然環境と生態系 ..... 40
- 3 世界各地の自然と生活 ..... 42
  - 1 世界の気候区分 ..... 42
  - 2 熱帯の自然と生活 ..... 46
  - 3 乾燥帯の自然と生活 ..... 48
  - 4 温帯の自然と生活 ..... 50
  - 5 亜寒帯と寒帯の自然と生活 ..... 54
  - ▶新しい視点 高山地域の自然と生活 ..... 56
- 4 日本の自然環境と防災 ..... 58
  - 1 日本の地形 ..... 58
  - 2 日本の気候 ..... 60
  - 3 日本の自然災害と防災 ..... 62
- 5 地球環境問題 ..... 64
  - 1 環境問題に関する大観 ..... 64
  - 2 越境する汚染 ..... 66
  - 3 地球温暖化の現状 ..... 68
  - 4 地球温暖化への対策 ..... 70
  - ▶新しい視点 環境問題への国際協力とシチズンサイエンス ..... ▶p.10-11

### 第2章 資源と産業

- 1 農林水産業 ..... 74
  - 1 農業の諸条件 ..... 74
  - 2 社会の発展と農業の変化 ..... ▶p.14-15
  - ▶新しい視点 都市とその周辺で営まれる農業 ..... 80
  - 3 グローバル化・技術革新と農業 ..... 82
  - 4 林業 ..... 85
  - 5 水産業 ..... 86
  - 6 食料問題 ..... ▶p.16-17
  - ▶日本を知る 日本の農林水産業とその課題 ..... 90

- 2 資源・エネルギー ..... 92
  - 1 社会の発展と資源の利用 ..... 92
  - 2 世界の鉱産資源 ..... 94
  - 3 世界のエネルギー資源とその課題 ..... 96
  - 4 電力の利用と変化 ..... 100
  - ▶日本を知る 日本の資源・エネルギー問題 ..... 102
- 3 工業 ..... 104
  - 1 社会の発展と世界の工業化 ..... 104
  - 2 工業の立地 ..... 106
  - 3 工業地域の形成と変化 ..... 108
  - 4 自動車工業の特徴と日本の海外生産 ..... 110
  - 5 国際分業の進展と多国籍企業 ..... ▶p.18-19
  - 6 工業生産のグローバル化に伴う諸課題 ..... 114
  - ▶新しい視点 知識集約型産業の発展 ..... 116
  - ▶日本を知る 日本の工業 変化と課題 ..... 118
- 4 第3次産業 ..... 120
  - 1 サービス経済化と社会の変化 ..... 120

### 第3章 人・モノ・金のつながり

- 1 交通・通信 ..... 122
  - 1 世界を結ぶ交通 ..... 122
  - 2 世界を結ぶ通信 ..... 126
  - ▶新しい視点 交通・通信の発達と買い物行動の変化 ..... 128
  - ▶日本を知る 日本の暮らしを支える交通とその課題 ..... 130
- 2 貿易・観光 ..... 132
  - 1 世界を結ぶ貿易 ..... 132
  - 2 世界と日本の貿易とその課題 ..... ▶p.20-21
  - 3 世界を結ぶ資金の流れ ..... 136
  - 4 世界を結ぶ観光とその課題 ..... 138
  - ▶日本を知る 日本の観光とその課題 ..... 140

### 第4章 人口、村落・都市

- 1 人口 ..... 142
  - 1 人口の推移と分布 ..... 142
  - 2 人口構成と人口転換 ..... 144
  - 3 人口移動 ..... 146
  - 4 人口増加地域、減少地域の人口問題 ..... 148
  - ▶日本を知る 日本の人口問題 ..... ▶p.22-23
- 2 村落・都市 ..... 152
  - 1 集落の成り立ちと機能 ..... 152
  - 2 都市の成り立ちと機能 ..... 156
  - ▶新しい視点 都市の拡大と都市システム ..... 158
  - 3 世界の都市・居住問題と解決への努力 ..... 162
  - ▶日本を知る 日本の都市・居住問題と解決への努力 ..... 164

### 第5章 文化と国家

- 1 生活文化と言語・宗教 ..... 166
  - 1 生活文化と地域 ..... 166
  - 2 世界の衣服 ..... 168
  - 3 世界の食生活 ..... 170
  - 4 世界の住居 ..... 172
  - 5 世界の言語 ..... 174
  - 6 世界の宗教 ..... 176

- 2 国家とその領域 ..... 178
  - 1 国家の形成と領域 ..... 178
  - 2 世界の民族・領土問題 ..... 180
  - 3 日本の領土に関する問題 ..... 182
  - 4 海洋国家としての日本 ..... 184
  - ▶新しい視点 北極圏と南極圏 ..... 186
  - 5 国際連合の役割と課題 ..... 188

## 第II編 現代世界の地誌的考察 ▶p.24-31

### 第1章 地域区分

- 1 現代世界の地域区分 ..... 190
  - 1 地域区分の目的と方法 ..... 190
  - 2 さまざまな地域区分 ..... 192
  - 3 本書でとりあげる地域と考察方法 ..... 195

### 第2章 現代世界の諸地域

- 1 中国 ▶経済成長に着目 ..... 196
  - 1 経済の改革開放による変化 ..... 196
  - 2 経済発展を支える人口 ..... ▶p.24-25
  - 3 経済発展を支える農業の地域性 ..... 200
  - 4 経済・産業の発展と現代の生活 ..... 202
  - 5 経済成長と国内外の課題 ..... 204
- 2 朝鮮半島 ▶項目ごとに整理 ..... 206
  - 1 東アジアのなかの朝鮮半島 ..... 206
  - 2 朝鮮半島の文化と経済発展 ..... 208
  - 3 韓国の課題と国際関係 ..... 210
- 海洋① 環日本海～海上輸送の発達 ..... 212
- 3 東南アジア ▶民族文化に着目 ..... 214
  - 1 東南アジアの成り立ちと多様な民族文化 ..... 214
  - 2 自然環境と農業・食文化 ..... 216
  - 3 工業化による発展と生活文化への影響 ..... 218
  - 4 地域内外の経済関係と文化のつながり ..... 220
- 4 南アジア ▶項目ごとに整理 ..... 222
  - 1 自然環境と人口 ..... 222
  - 2 住民と文化 ..... 224
  - 3 農業と農村 ..... 226
  - 4 産業の発展とグローバル化 ..... 228
- 5 西アジア・中央アジア ▶類似的な地域を比較 ..... 230
  - 1 多様な自然環境 ..... 230
  - 2 民族と文化 ..... 232
  - 3 資源開発の進展と生活の変化 ..... 234
  - 4 地域紛争と国際関係 ..... 236
- 6 北アフリカ・サブサハラアフリカ ▶対照的な地域を比較 ..... 238
  - 1 自然環境と農業 ..... 238
  - 2 歴史と文化 ..... ▶p.24-25
  - 3 産業と経済発展 ..... 242
  - 4 地域紛争と国際関係 ..... 244
- 海洋② 環インド洋～交易と宗教文化 ..... 246

- 7 ヨーロッパ ▶地域統合に着目 ..... 248
  - 1 統合するヨーロッパ ..... 248
  - 2 統合の背景としての文化の多様性 ..... 250
  - 3 自然と農業の地域性と共通農業政策 ..... 252
  - 4 エネルギー・工業と貿易・交通の変化 ..... 254
  - 5 ヨーロッパの変化と課題 ..... 256

### 12地域の特色と課題を考察する地誌学習

第I編の系統分野の学習を、地域の構造や変容、課題の視点から、捉え直します。

- 8 ロシア ▶項目ごとに整理 ..... 264
  - 1 自然環境と民族・文化 ..... 264
  - 2 体制転換と産業の変化 ..... 266
  - 3 ロシアと世界の結びつき ..... 268

- 9 アングロアメリカ ▶項目ごとに整理 ..... 264
  - 1 自然環境の多様性と自然災害の特徴 ..... 264
  - 2 社会の多様性と多文化社会 ..... 266
  - 3 世界をリードする農業と産業 ..... ▶p.26-27
  - 4 世界と結びつくアメリカ ..... 270

- 10 ラテンアメリカ ▶項目ごとに整理 ..... 272
  - 1 多様な自然環境と農業 ..... 272
  - 2 混ざりあう民族、拡大する都市 ..... ▶p.24-25
  - 3 鉱工業の移り変わり ..... 276
  - 4 地域内外との政治的・経済的關係 ..... 278

- 海洋③ 環大西洋～結びつきの変化 ..... 280
- 11 オーストラリア ▶項目ごとに整理 ..... 282
  - 1 自然と農牧業・鉱工業 ..... 282
  - 2 多文化主義の社会と大都市の発達 ..... 284
  - 3 世界との結びつき ..... 286

- 12 ニュージーランドと島嶼国 ▶項目ごとに整理 ..... 288
  - 1 オセアニアのなかのニュージーランド ..... 288

### 日本の国土像の探究

これまでの学習をふまえ、日本がかかえる課題について現状の把握から考察を進め、将来の国土像のあり方について展望します。

- 海洋④ 環太平洋～開発と海洋保護 ..... ▶p.30-31

## 第III編 現代世界におけるこれからの日本の国土像

- 1 現代日本に求められる国土像 ..... 29
  - 1 2050年の日本の姿 ..... 29
  - 2 テーマ① 自然災害に強い国土をめざすには ..... 29
  - 2 テーマ② 産業の変化と持続可能な成長 ..... 29
  - 2 テーマ③ 人口減少社会を活性化するためには ..... 30
  - 2 テーマ④ 多文化共生社会の実現 ..... ▶p.32-33
  - 3 国土像の探究～エネルギーの安定供給をめざして ..... 304

### 巻末付録 地図とGISの理解を深める

- 1 地図の見方・考え方 ..... 298
- 2 地理院地図を活用しよう ..... 299
- 3 Web GISにアクセスしよう ..... 300
- 4 GISとGNSSのしくみ ..... 301

### 地図とGISの理解を深める付録

地理学習の基本となる図法や地図、GISの基礎について、巻末にまとめました。

あとがき よりよい世界を構築するために ..... 304

### 学習を深める、三つの特設ページ

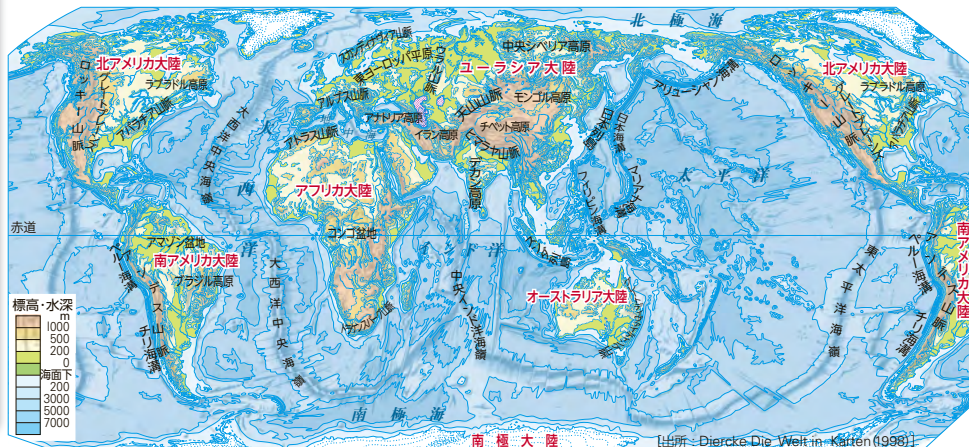
- ▶新しい視点 ... 新しい切り口から各分野の動向を取り上げます
- ▶日本を知る ... 世界の学習を踏まえたうえで日本の現状と課題を考えます
- ▶海洋からみた世界のつながり ... 海に視点を移して、地域のつながりを読み解きます

地理総合での地形学習をふまえ、形成過程を段階的に整理しました

教 p.8-9

第 1 章 自然環境

① 地形



↑ 地球の表面の起伏 標高の高い山脈や高原はどのような地域に分布しているだろうか。また、海溝や海嶺の分布にも注目してみよう。

イントロ

世界の陸地と海洋はどのように分布し、どのような要因によってつくられているのだろうか。

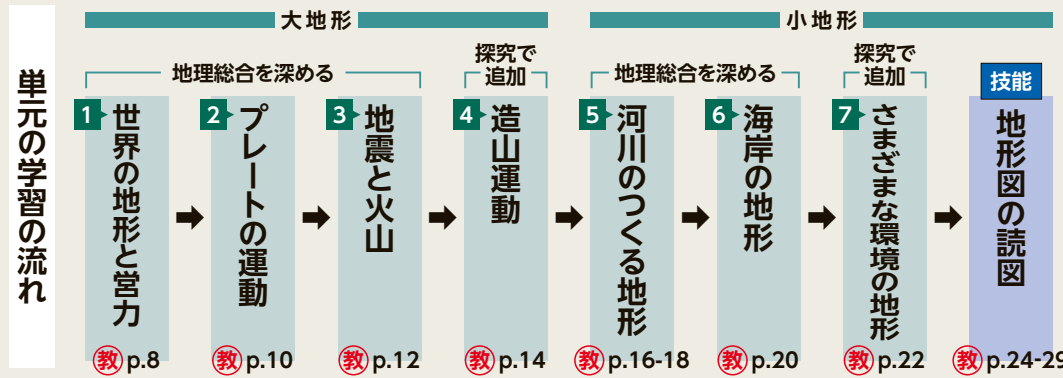
1 世界の地形と地形をつくる力

地球表面の形 図1で地球の表面をみると、陸地には平らに広がる平原や標高の高い山脈があり、海底にも複雑な起伏があることがわかる。地球の表面の起伏がおりなす形を地形という。特に、大きな陸地のまとまりを大陸といい、世界の陸地はユーラシア、アフリカ、北アメリカ、南アメリカ、オーストラリア、南極の六つの大陸と多くの

地理総合の地形学習は、生活文化や防災とのかかわりを中心に大観。地理探究では、成因や形成過程に焦点をあて、地理総合を深めながら、探究の内容に発展できるよう整理しました。

『地理総合』（地総 704）と『地理探究』（地探 703）教科書の「地形」単元の掲載用語の比較

	2章① 変動帯とプレート	5章④ 火山の噴火と防災 ⑤ 地震・津波と防災	2章② 河川がつくる地形と生活	2章③ 海岸の地形と生活	
地理総合 地総 704 のみ		カルデラ湖、火口湖、温泉、地熱発電、火山泥流、土石流、二次災害、溶岩流、火山ガス、降灰予報、陸地の浅い地震、耐震化、免震化、制振化	流域、ダム	波食棚	
共通する 用語	内的営力、外的営力、変動帯、プレート、プレートテクトニクス、狭まる境界、広がる境界、海嶺、海溝、ずれる境界、安定大陸	火山、噴火、火砕流、火山灰、地震、プレート境界の地震、活断層、津波、液状化、	侵食、運搬、堆積、V字谷、谷底平野、河岸段丘、扇状地、水無川、湧水、氾濫原、蛇行、自然堤防、後背湿地、三日月湖、三角州（デルタ）	岩石海岸、砂浜海岸、海食崖、砂州、砂嘴、潟湖（ラグーン）、陸繋砂州（トンボロ）、陸繋島、離水、海岸平野、浜堤、海岸段丘、沈水、氷河、氷期、間氷期、リアス海岸、フィヨルド、サンゴ礁	
地理探究 地探 703 のみ	① 世界の地形と地形をつくる力 地形、大陸、大洋、営力、地殻変動、火山活動	② プレートの運動が地形におよぼす影響 ③ 地震と火山 ホットスポット、楯状火山、成層火山、	④ 造山運動と世界の陸地 造山運動、新期造山帯、アルプス=ヒマラヤ造山帯、環太平洋造山帯、古期造山帯、安定陸塊、楯状地、卓状地、構造平野、ケスタ	⑤ 河川がつくりだす地形 沖積平野、地盤沈下、輪中集落、低地、台地、丘陵、縄文海進	⑥ 海岸にみられる地形 エスチュアリー ⑦ さまざまな環境で形成される地形 氷床、山岳氷河、カール、U字谷、フィヨルド、モレーン、岩石砂漠、礫砂漠、砂漠、ワジ、塩湖、堰礁、堡礁（バリアリーフ）、環礁、カルスト地形、ドリーネ、ウパーレ、鍾乳洞、タワーカルスト



↑ 地殻変動によって隆起した山脈（ヒマラヤ山脈、2017年撮影）



↑ 火山活動によってできた巨大な火口（ハワイ・オアフ島のダイヤモンドヘッド、2013年撮影）火口の直径は1kmにおよぶ。



↑ 河川の流れが作り出した蛇行（イギリス・スコットランド、2020年撮影）

地形をつくる力 地形をつくる力を営力<sup>えいりょく</sup>といい、大きく二つに分けられる。一つは地球内部から生み出される**内的営力**で、地表の隆起や沈降などの**地殻変動**（写真3）や**火山活動**（写真4）をおこしている。内的営力は、長い時間をかけて広範囲に地表を変化させ、図1にみられるような大陸や大山脈、海洋や海嶺などをつくってきた。こうした大規模な地形を**大地形**という。

もう一つは、おもに太陽エネルギーを起源とする**外的営力**で、岩石をもろくする**風化作用**や、河川水、海水、氷河、風などによる**侵食、運搬、堆積作用**を引き起こす。つまり外的営力は、地表をもろくして高いところを削り、削られた礫や砂などを地表の低いところに運んで埋める力である。外的営力によってつくられる山の尾根や谷、河川の蛇行（写真5）、平野にみられる扇状地や三角州、海岸にみられる磯や浜など、私たちが見渡せる範囲の小規模な地形を**小地形**という。

「内的営力」「外的営力」を軸に、世界図や写真で大観させながら、大規模な地形が形成される要因を整理しています。

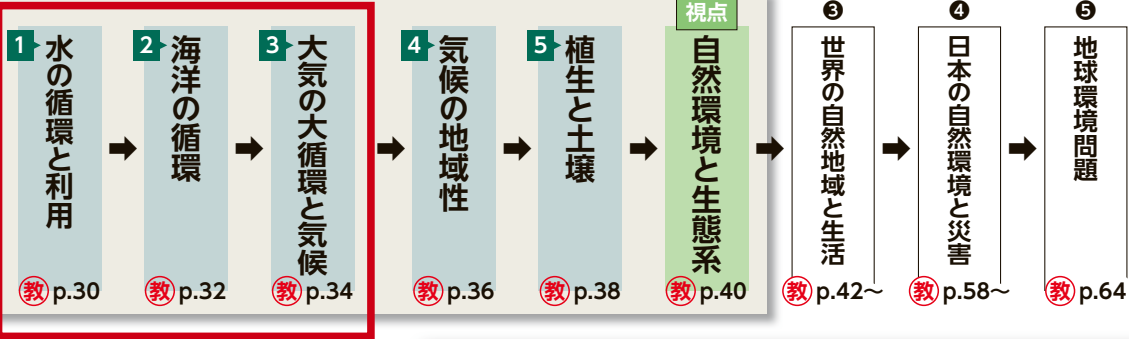
① 風化作用 地表付近の岩石が温度変化や化学変化などによって変質・分解する作用をいう。

まとめと探究

- ① 海嶺や海溝は海洋のなかでどのような場所にみられるか、まとめてみよう。
- ② 地形をつくる力について、大きく二つに分けてまとめてみよう。

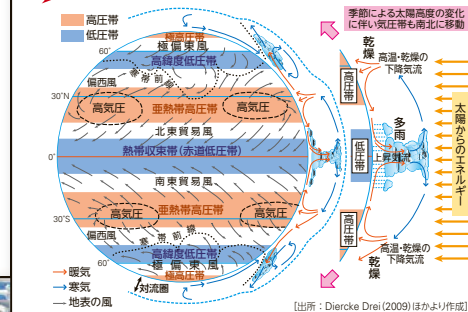
「水」「海洋」「大気」の循環を追い、気候のしくみを段階的に深めて理解させる構成です

単元の学習の流れ

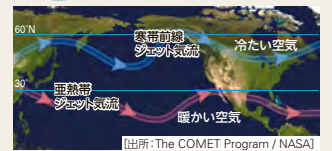


新指導要領に即し、「水」「海洋」「大気」の空間的な規則性や傾向性に着目させます。相互の関わり合いもふまえ、気候のしくみについて段階的に理解を進めます。

教 p.35 「大気の大循環と気候」



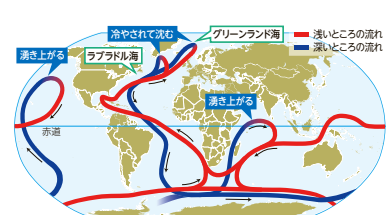
地理の話題 ジェット気流



1 亜熱帯ジェット気流と寒帯前線ジェット気流

中緯度の対流圏の上層に発達するジェット気流は、蛇行を繰り返しながら南北の熱交換をしている。亜熱帯ジェット気流と寒帯前線ジェット気流があり、亜熱帯ジェット気流は季節によって分流と合流を繰り返す。梅雨や夏・冬の天候に影響を与えている。

教 p.32-33 「海洋の循環」



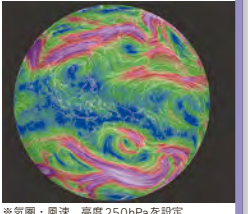
1 大洋をめぐる深層循環 深層流の流速は秒速1cm程度で、沈み始めてから表層に戻るまでに1000年以上かかる。

**深層流による循環** 水温や塩分など海水の密度の違いによって深層流が、長い時間スケールでの水の循環を深層循環とよぶ(図3)。グリーンランドの近海や南極海付近では、海水の発達によって海水の塩分が高くなり、重くなって海中に沈み込んだ海水は深層流となり、大西洋から南極海を経て北上しながら表層へと湧き上がり、もとの位置に戻っていく。

**海洋の大循環** 表層流と深層流による地球規模の循環を、海洋の大循環という。循環によって海水温や塩分濃度の地域差が解消され、地球規模で海洋の平衡が保たれている。現在では、海水温や海流の変化が上空の大気環境に大きく影響することがわかっており、大循環に変化が生じると、地球全体の気候変動につながると考えられている。

**大気の大循環** 地球の表面上には薄い大気の層があり、太陽からのエネルギーを受けて循環している。太陽からのエネルギーは図3のように低緯度に多く入ってくるが、大気や海洋の循環を通して高緯度との間で熱エネルギーの交換が行われ、地球全体での気温差を解消しようとする。この地球規模での大気の流れを、大気の大循環という(図4)。なかでも、地表に近い対流圏での循環は、気候に大きな影響を与える。

風は、気圧の高いところ(高気圧)から低いところ(低気圧)に向かって吹く。赤道付近では、地表が太陽からのエネルギーを多く受け、地表に接する大気が温められ、上昇気流が発達して熱帯収束帯(赤道低気圧帯)ができる。上昇気流は、上空で南北に分かれたあと自転の影響により緯度20〜30度付近で下降し、亜熱帯高気圧(中緯度高気圧)を形成する。このとき中緯度の上空では西からの偏西風が、低緯度に向か

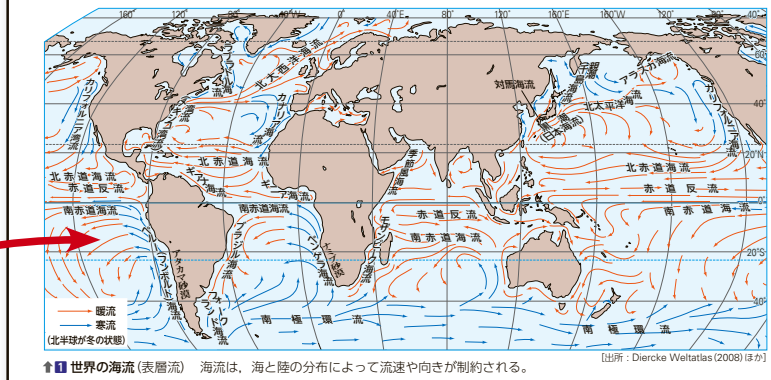


※気圏・風速、高度250hPaを設定 [出所: earth] 1 「地球の風、天気、海の状況」ウェブサイトにあるジェット気流の動き

大気の大循環を可視化できるウェブサイトの二次元コードを掲載しました。教科書の模式図への理解を深めます。

循環を学習する一方で、その循環が止まることを考察させ、多面的な探究活動を促します。

地理の話題コラムでは、「気温上昇の海洋の循環への影響」や「対流圏の上層のジェット気流」を取り上げ、本文を深め、より発展的に考察させるコラムを用意しています。



1 世界の海流(表層流) 海流は、海と陸の分布によって流速や向きが制約される。 [出所: Diercke Weltatlas(2008)ほか]

2 海洋の循環

風の力や水温、塩分濃度の違いにより生じる海水の流れを海流という。海流は、低緯度の熱エネルギーを高緯度するとともに、沿岸地域の大気環境にさまざまな影響を与え、気候を特徴づける一因になっている。また、水温・流路・流速などの性質は、季節や数年におよぶ周期で変化するため、海流の変化は、気候変動など、地球環境の変化を考える重要な手がかりとなる。海流は、流れる水深によって表層流と深層流に分けられる。

**表層流による循環** 海の表層では、海水はおもに風の影響を受けて循環(風成循環)しており、この水平的な海流を表層流(吹送流)という。図1から世界の表層流の傾向をみると、北半球では時計回りに、南半球では反時計回りに流れていることがわかる。北大西洋を流れるメキシコ湾流(湾流)と、その延長にあたる北大西洋海流は、低緯度の熱エネルギーを高緯度に輸送する暖流で、ヨーロッパ沿岸の気候に影響を及ぼしている。また、南太平洋のペルー海流や南大西洋のベンゲラ海流は高緯度低緯度に向かう寒流で、沿岸では下層の大気が冷やされ上昇気流しにくく、海霧が発生しやすいが、降水量は少なくなる。その沿岸地域の一部では海岸砂漠がみられる。

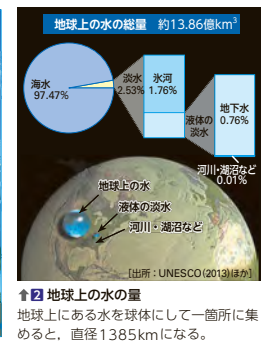
**深層流による循環** 海の表層では、海水はおもに風の影響を受けて循環(風成循環)しており、この水平的な海流を表層流(吹送流)という。図1から世界の表層流の傾向をみると、北半球では時計回りに、南半球では反時計回りに流れていることがわかる。北大西洋を流れるメキシコ湾流(湾流)と、その延長にあたる北大西洋海流は、低緯度の熱エネルギーを高緯度に輸送する暖流で、ヨーロッパ沿岸の気候に影響を及ぼしている。また、南太平洋のペルー海流や南大西洋のベンゲラ海流は高緯度低緯度に向かう寒流で、沿岸では下層の大気が冷やされ上昇気流しにくく、海霧が発生しやすいが、降水量は少なくなる。その沿岸地域の一部では海岸砂漠がみられる。

**黒潮大蛇行** 黒潮の流路が伊予半島の瀬戸沖で大きく蛇行する現象。蛇行する流路に囲まれた海域に冷水塊が停滞すると、台風や低気圧の経路に影響を与えたり、漁場を沖合に移動させたりする。

**ポイント補説** 水管理と国際協力 水は生命の起源であり、最も貴重な天然資源といえるが、地域的な偏りが大きく、深刻な水不足や水質汚染、水を巡る紛争もあつていく。一方、水は地球共有の資源として、海水の淡水化や下水処理による水の再生

教 p.30 「水の循環と利用」

2 気候と生態系



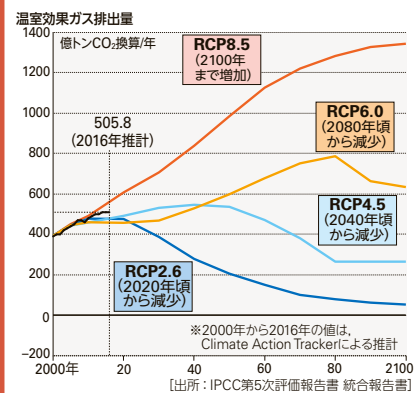
1 水の循環と利用

**循環する水** 地球上には約14億km<sup>3</sup>の水が存在し、地球表面の約3分の2が水でおおわれている。地球上の水は、図1のように固体(雪や氷)、液体(水)、気体(水蒸気)と絶えず姿を変えて循環している。海洋や地表にある水・氷は熱エネルギーによって蒸発・昇華し、上空で冷やされて雲ができ、雲を構成する水滴や氷の粒が集まって重くなると、雨や雪となって地表に降る。地表に降った水は、湖沼水や河川水、地下水となり、やがては海へと流れ出る。こうした一連の水の流れを水循環とよんでいる。

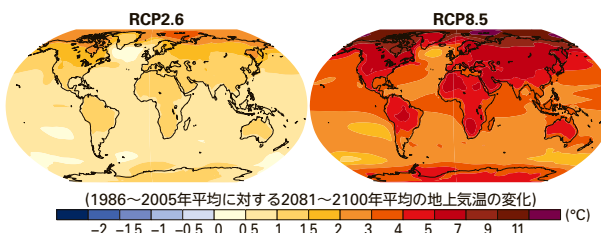
第1章 自然環境 ②地球環境問題

地球環境問題の現状と対策について、多角的に捉えて考察します

教 p.70-71



↑1 RCP (代表濃度経路) シナリオ RCP2.6のシナリオに沿って温室効果ガスの排出量を減らすことができれば、気温上昇を低く抑



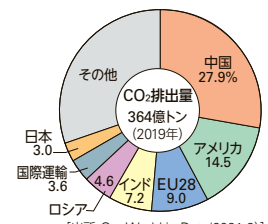
シナリオ	2046~2065年(°C)		2081~2100年(°C)	
	平均	可能性の高い範囲	平均	可能性の高い範囲
RCP8.5	2.0	1.4~2.6	3.7	2.6~4.8
RCP6.0	1.3	0.8~1.8	2.2	1.4~3.1
RCP4.5	1.4	0.9~2.0	1.8	1.1~2.6
RCP2.6	1.0	0.4~1.6	1.0	0.3~1.7

↑2 2100年までの気温変化の見通し 気温の上昇を2°C以下に抑えるためには、RCP4.5以下のシナリオを実現する必要がある。

地球環境問題の最大の関心事である地球温暖化に6ページをあてて詳細に解説。このページでは、IPCCのシナリオをふまえて、「緩和」と「適応」という二つの側面から対策を考察します。

①RCP (代表濃度経路) シナリオ RCP8.5は将来ありうると考えられる上限、RCP2.6は下限のシナリオ。その中間に、RCP4.5、RCP6.0という複数の現実的なシナリオが設定されている。

②産業革命 18世紀中頃のイギリスから始まった、技術革新による産業構造と経済・社会の大きな変革をいう。



↑3 二酸化炭素の国別排出割合 中国、アメリカ、インドの動向が、気候変動対策の鍵を握っていることがわかる。

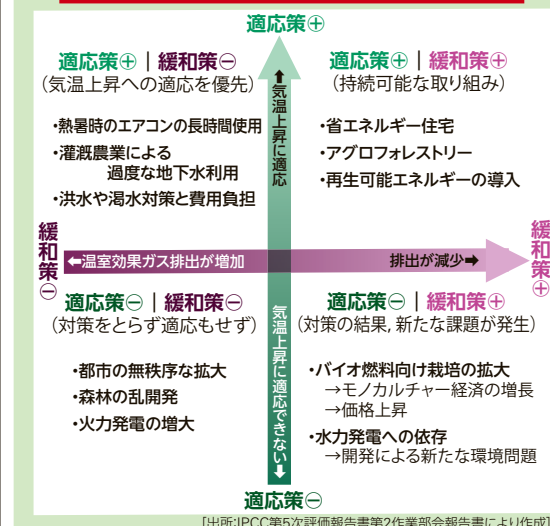
4 地球温暖化への対策

④ 複数の温暖化シナリオ IPCCの第5次評価報告書では、温室効果ガス排出量の変化に関する想定をもとに、四つのRCP (代表濃度経路) シナリオ (図1) を示しており、これに基づいて21世紀末までの気温変化が予測されている。シナリオでは、ただちに対策をとり温室効果ガスの排出を最大限に抑制できた場合は、気温の上昇を約1.0°Cに抑えられると予測されている (図2: RCP2.6)。しかし、何も対策をとらずに、温室効果ガスの排出量が増加し続けた場合は、21世紀末の世界の平均気温は約3.7°C上昇すると予測されている (図2: RCP8.5)。

⑤ 温暖化防止への国際的な取り組み IPCCのシナリオは、21世紀末に平均気温の上昇を2°C以下に抑えるためには、ただちに温室効果ガスの排出を削減し、21世紀末には排出ゼロを実現する必要があることを示している (図1)。こうした目標を実現するために、温室効果ガスの排出量を削減する取り組みが世界的に進められている。

⑥ 国別に二酸化炭素の排出量をみると、中国、アメリカ、インドからの排出量が世界全体の半分近くを占めている (図3)。こうした温室効果ガスを大量に排出する国と、それ以外の国との間では、排出規制のあり方について意見の隔たりが大きい。また、技術が未発達な発展途上国は、自力で温暖化対策を進めることは難しい。2016年に発効したパリ協定では、気温の上昇を産業革命の前と比べて2°C以下に抑える数値目標が国際的な合意をもとに設定された。しかし、目標実現のための温室効果ガスの削減目標は各国の自主性にゆだねられ、足並みはそろっていない。今後の交渉の場となる締約国会議(COP)の動向が注目される。

緩和策・適応策を具体例から考察

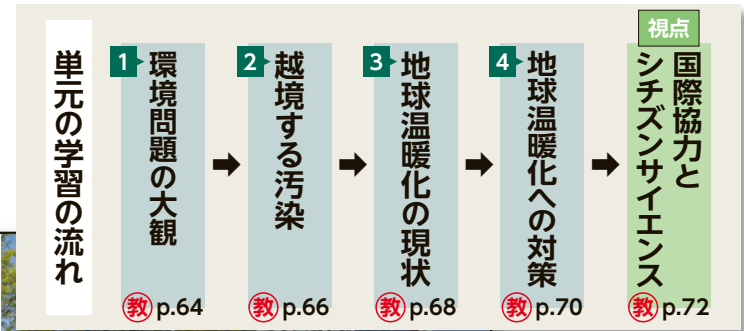


↑4 温暖化への緩和策と適応策 温暖化対策を持続可能なものにするには、緩和策と適応策の両立が不可欠である。

⑦ 緩和策と適応策 地球温暖化への対策は、図4のように緩和策と適応策の二つに分かれ、さまざまな取り組みが行われている。

⑧ 緩和策は、温室効果ガスの排出量を抑えることにより温暖化の進行を抑える対策をいう。例えば、自動車、住宅、工場などの省エネルギー化と再生可能エネルギーの導入、資源や製品のリサイクル、環境に配慮した都市の開発・再開発などがあげられる。省エネルギー住宅では、太陽光発電を導入するとともに、高断熱素材を壁面などに使用し、高効率の給湯器や照明などを設置し、それらをネットワークで結ぶことで、エネルギー消費を抑える工夫が行われている (図5)。エネルギーの面では、図7のように枯渇性エネルギー (化石燃料) から再生可能エネルギーへの移行が進められている。

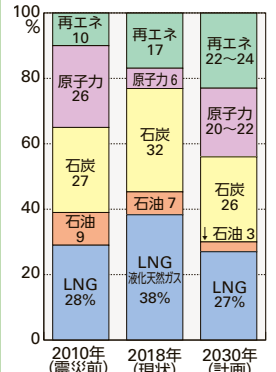
⑨ 適応策は、気候の変化に合わせて、暮らしのあり方や、農業、工業など産業活動の構造を変えたり、渇水対策や治水など、自然災害に対する備えを進めたりする対策をいう。例えば、ぶどうや米などの農作物を、栽培地域の移動や品種改良によって、温暖化が進む気候条件に適応させようとしている。熱帯地域では、アグロフォレストリーとよばれる農業モデルを、国連食糧農業機関 (FAO) が推奨している。これは、同じ区画の樹木の下で畑作や放牧を行い、強い日射から作物や家畜を守るもので、林業と農牧業が一体となって自然との調和をはかるよう進められている (写真6)。温暖化対策と経済発展を両立させる持続可能な開発の実現には、こうした緩和策と適応策を適切に組み合わせる必要がある。



↑5 エネルギーを自給自足する「0+ハウス」(中国・天津、2020年5月撮影) 「天津エコシティ」は、今後の中国の都市開発のモデルとして、中国・シンガポールが共同開発を進めている。



↑6 アグロフォレストリー (コートジボワール、2016年2月撮影) ゴムの木の間で農作物を育て、天然ゴム農家の安定収入と環境保全を両立させる。



↑7 日本の発電電力量構成と2030年の計画 原発事故後に化石燃料の割合が増えたが、今後は、再エネと安定供給のバランスをとるようエネルギー計画が進められている。

日本のエネルギー計画について、震災前と現状を比較することにより、温暖化対策としての火力低減、再エネ普及とともに、原発の安全性とのバランスについても考察させます。

まとめと ⑩ 温暖化防 ⑪ 適応策に エネルギーの持続可能性については (教) p.100, 102で世界・日本の動向を学習し、(教) p.304「国土像の探究 エネルギーの安定供給をめざして」で学んだ内容を総括し探究活動を行います。

本パンフ → p.32

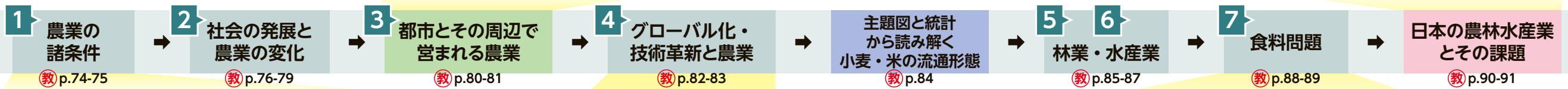
各産業分野，成立の背景から 現状まで段階的に学習できます



第3次産業を独立させて第3章への接続をはかりました

農林水産業では，各農業地域の特徴や成立条件など基本的事項をおさえます。それから，「都市の農業と市場」や「グローバル化」といった違う側面からの学習を通して，食料問題や日本の農業を考察します。

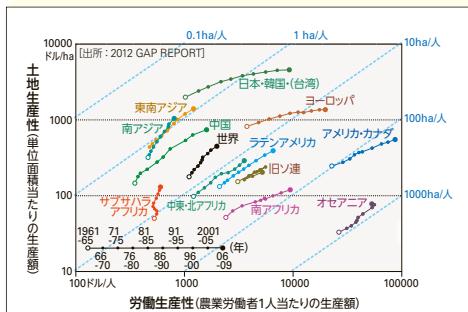
単元の学習の流れの例 「農林水産業」単元の流れ



都市とその周辺で営まれる農業 (Agriculture in cities and surroundings). Includes a map of urban agriculture and a photo of a farm. Reference: 本パンフ p.14.

地理の技能 (Geographical skills). Includes a world map showing wheat and rice distribution. Reference: 本パンフ p.16.

日本の農林水産業とその課題 (Agriculture, Forestry, and Fisheries in Japan and its challenges). Includes photos of agricultural products and a bar chart. Reference: 本パンフ p.16.



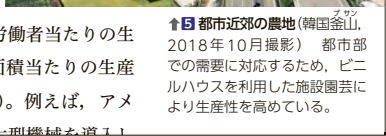
地域別にみた土地生産性と労働生産性の変化 (Changes in land and labor productivity by region). Source: 2012 GAP REPORT.

思考力・判断力の育成 (Development of thinking and judgment skills). Discusses the relationship between land and labor productivity across different agricultural regions.

知識の獲得・整理 (Acquisition and organization of knowledge). Discusses the impact of globalization and changes in food life on agriculture.



大規模な小麦栽培 (オーストラリア・ウエスタン) (Large-scale wheat cultivation (Australia, Western)).

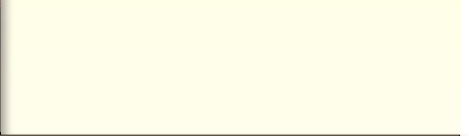


都市近郊の農地 (韓国釜山) (Urban fringe farmland (South Korea, Busan)).

地理の話題 多様化する大豆の用途 (Geographical topic: Diversifying uses of soybeans). Discusses the economic globalization and the increasing demand for soybeans.



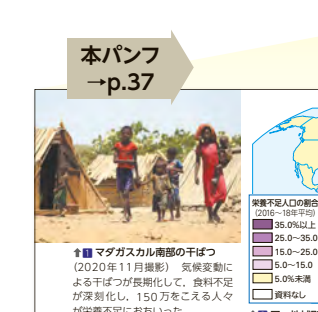
マダガスカル南部の干ばつ (2020年11月撮影) (Drought in southern Madagascar (November 2020)).



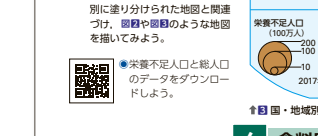
国・地域別の栄養不足人口割合 (国・地域区分) (Malnutrition rate by country/region (country/region division)).



大豆の貿易動向 (Soybean trade trends). Reference: 本パンフ p.37.

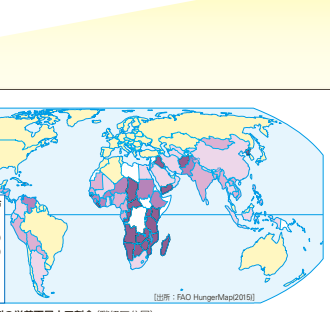


国・地域別の栄養不足人口割合 (国・地域区分) (Malnutrition rate by country/region (country/region division)).



国・地域別の栄養不足人口 (国形表現) (Malnutrition rate by country (shape representation)).

6 食料問題 (Food issues). Discusses the challenges of feeding a growing world population and the impact of climate change.



国・地域別の栄養不足人口割合 (国・地域区分) (Malnutrition rate by country/region (country/region division)).

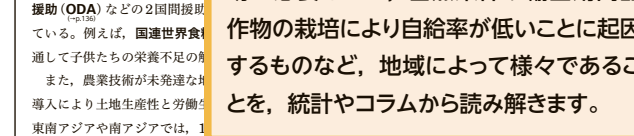


国・地域別の栄養不足人口 (国形表現) (Malnutrition rate by country (shape representation)).

6 食料問題 (Food issues). Discusses the challenges of feeding a growing world population and the impact of climate change.



WFPによる学校給食の提供 (イエメン・サナア) (2020年12月撮影) (School food provision by WFP (Yemen, Sana'a) (December 2020)).



JICAによる耕作支援 (ケメルン) (2017年2月撮影) (JICA's farming support (Kemerun) (February 2017)).

食料問題への対策 (Measures for food issues). Discusses the impact of natural disasters and the need for food aid.

系統分野ごとに新しい視点から 題材を取り上げ、理解を深めます

教 p.80-81

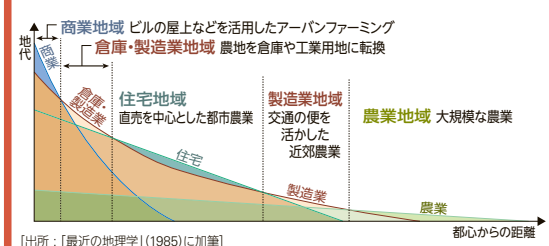
新しい視点

# 都市とその周辺で営まれる農業

農業への新しい視点として、「農地」と「市場」の近接性に着目します。具体的な地図・模式図・写真を通して、農業の立地の距離との関係について理解を深めます。



↑1 東京周辺の農地の分布 図の撮影地点A～Eは写真③～⑦のどれに当てはまるだろうか。



↑2 農業と他の土地利用との競合 集約的な経営を行うとともに、生産緑地制度による優遇を受けたり、不動産との兼業などで収入源を確保したりすることで、都市でも農業が維持されている。



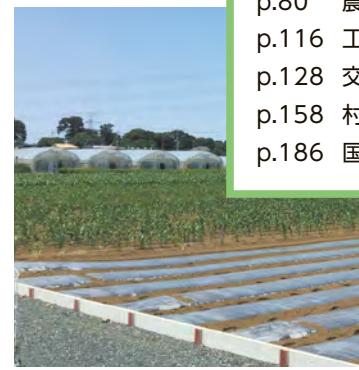
↑3 ビルの屋上を活用した小規模農園(東京都江東区, 2017年9月撮影) 個人向けの小規模区画が貸し出され、近隣で働く人々を中心に利用されている。



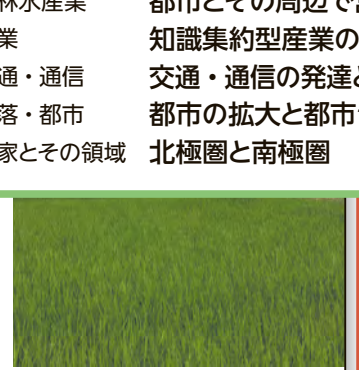
↑4 倉庫・製造業に土地利用が転換した地域(東京都板橋区, 2015年10月撮影) 昭和初期から水田が埋め立てられ、工業地域に変化した。



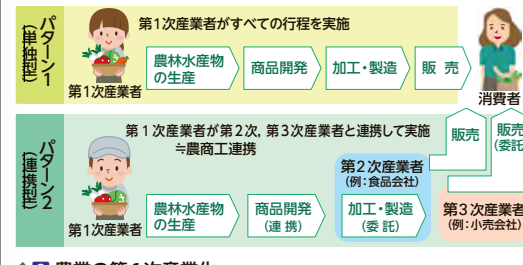
↑5 住宅地で営まれる都市農業 (東京都小平市, 2016年5月撮影) 都市近郊の農地は、災害時の避難空間としての役割も果たしている。



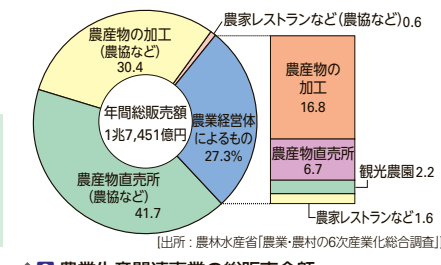
↑6 都市に野菜を供給する近郊農業 (埼玉県狭山市, 2016年6月撮影) 露地栽培とともに、ビニルハウスによる施設園芸農業も営まれている。



↑7 大規模な稲作地帯 (茨城県取手市, 2016年7月撮影) 社員食堂との提携や回転寿司チェーンへの出荷など、地産地消をはかっている。



↑8 農業の第6次産業化



↑9 農業生産関連事業の総販売金額

農業と多くの分野の業種や地域が結びつき、新たな付加価値を創出する「農業の第6次産業化」を取り上げます。農業の市場との関係や採算性を、新たな切り口から考察することができます。

世界の農業地域の学習の後に、都市農業や近郊農業といった具体的な事例から、農地と市場の距離の関係や、都市化の進行による農業の変化について解説します。

問いかけ 都市とその近郊で営まれる農業には、どのような特徴があるのだろうか。また、都市の発展と拡大によって、どのように変化してきたのだろうか。

### 都市からの距離と農業

大きな市場である都市とその近郊で営まれる農業は、市場からの距離によって特徴づけられる。市場に近いほど農業は集約的になり、離れるほど粗放的になる。

例えば、市場に近いところでは輸送費はかからないものの地代が高くなるため、狭い土地で付加価値の高い作物を生産する集約的な経営が多くなる。そのため、多品目少量生産による野菜生産や酪農など、生鮮品に特化する傾向が強い。

一方、市場から離れると、地代は安くなるが輸送費が高くなるため、広大な土地で大量の農作物を粗放的に生産する経営となり、穀物や野菜などの少品目大量生産が中心になる。

### 都市化と農業

第2次産業や第3次産業が農業より高い利益を得られる地域では、農地はほかの土地利用へと転換する(図2)。都心部では、LED照明を用いた水耕栽培による建物内で野菜の生産や、ビルの屋上を利用した小規模農園の設置など、アーバンファームと呼ばれる新たな農業の形が普及しつつある(写真3)。都心に近い地域では、都市の拡大とともに写真4のように農地から住宅・工業用地への転換が進むが、住宅地の近くでは、都市住民向けの園芸農業を中心とした都市農業が維持されている(写真5)。都市農業では、機械・設備・農薬・肥料などを投入した集約的な経営により直売向け野菜を生産し、付加価値を高めている。

### 都市の拡大と農業

都市の近郊では、交通に便利な地域を中心に住宅地や工業団地などが整備されるようになるが、交通の便を活かして鮮度を保った状態で消費地へ野菜・果物・花卉類などを供給する近郊農業が営まれている。かつては粗放的な農業が行われていた地域でも、流通網の整備によって写真6のような集約的な農業が営まれるように変化してきている。さらに都心から離れた低地では、写真7のような大規模な稲作が維持されている。

現在は、冷蔵・冷凍技術の向上により高い鮮度と品質を維持したまま、年間を通して農作物を出荷している。また、乾燥野菜や果汁へ加工して製品の重量を減らすことにより、さらに長期保存や長時間輸送が可能になる。技術の発展により農作物の付加価値を高めることは、農業の維持につながっている。

まとめ 都市とその近郊で営まれる農業は都市に近いほど集約的になるが、都市化や交通網の発達などの影響を受け市場が拡大し、多種多様な形態で商品販売するようになっている。

### 農業の第6次産業化

農業の複合的な経営という観点で、第6次産業という言葉が注目されている(図8)。具体的には、第1次産業で生産される1次産品を、その生産地で加工したり調理したりして付加価値を高め、第2次産業である製造業を発展させる。さらに製品化したものを地元の直売所やレストランなどで販売することで、第3次産業であるサービス業などを発展させるというものである(図9)。

第6次産業による付加価値の創出は、地域活性化や雇用の創出につながり、農業の持続可能性を高めることに寄与する。例えば都市近郊の酪農は、季節の変動による搾乳量の変動や、飲料用の牛乳の需要減少などにより安定的な経営が難しくなっている。そこで、チーズなどの乳製品に加工し、直売施設やカフェを併設することで販路を拡大している。

問いかけ

まとめ

最初の問いかけで、「新しい視点」の着目点を明確に設定します。最後のまとめで、学習内容を確認できるようにしています。



各系統分野の世界の学習後に、日本の現状と課題を取り上げます

教 p.90-91



# 日本の農林水産業とその課題

日本の農林水産業について、「米・小麦」「野菜・果樹・畜産物」「林業」「水産業」に項目を立てて整理しながら、歴史的な経緯や現状、課題をしっかりと記述しています。



↑1 石狩平野の水田地帯 (北海道石狩郡当別町, 2020年8月撮影) 泥炭地で稲作に向いていない土地であったが、ほかの土地から土を持ってくる、客土とよばれる土地改良により大規模な水田地帯となった。



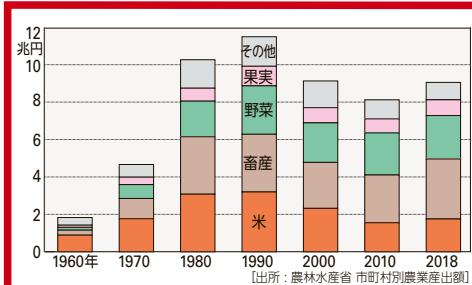
↑2 ベトナムに輸出される梨 (福島県いわき市, 2019年8月撮影) 輸出の拡大に向けて、厳しい検疫条件を満たすための、減農薬への対応や、鮮度を保つ水温コンテナによる輸送体制の構築などの取り組みが続けられている。



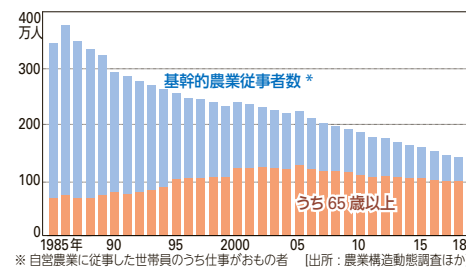
↑5 機械化された林業 (宮崎県都城市, 2013年9月撮影)



↑6 カツオの水揚げ (宮城県気仙沼市, 2018年4月撮影)



↑3 日本の品目別農業産出額の推移



↑4 農業の担い手の減少と高齢化

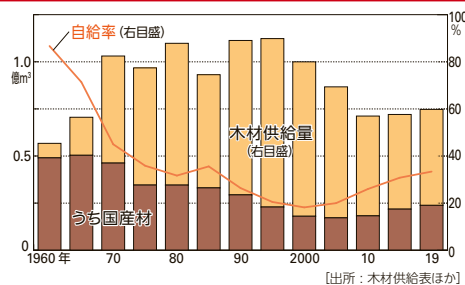
問いかけ 日本の農林水産業は、第二次世界大戦後の復興や経済成長による生活の変化に、どのように対応し、発展してきたのだろうか。それぞれの現状と課題について考えてみよう。

### 米・小麦の動向

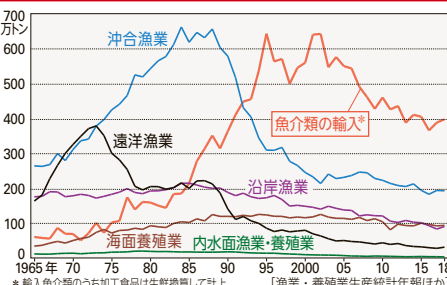
- 1 国土に平地が少ない日本では、アメリカやオーストラリアと比べて農地が狭いため、集約的で土地生産性の高い農業が行われてきた。
2 主食の米や小麦は、第二次世界大戦後しばらくは、食糧管理制度によって政府の管理下に置かれ、全量買い上げが行われていた。その後、土地改良や圃場整備とともに機械化も進み、生産性は大きく向上した(写真1)。それによって、米は1967年に完全自給を達成したが、パン食の普及によって主食の需要が米から小麦に転換したため、米の生産は過剰になり、1971年から2018年まで減反政策が続けられた。一方、小麦は国産品の価格と国際価格の差が大きいため、輸入に大きく依存し、食料自給率は現在も低迷を続けている。

### 野菜・果樹・畜産物の動向

- 3 キャベツや大根、きゅうり、トマトなど消費量の多い野菜14品目については、一定以上の規模を持つ指定産地を市町村単位で設定することによって産地を育成し、出荷量を安定させてきた。みかんやりんごなどの果樹や、牛、豚、鶏などの畜産物は、戦後の需要増加に対応するために選択的拡大政策がとられ、生産量を大きく増加させた(図3)。しかし、1991年の牛肉・オレンジの輸入自由化を皮切りに、外国産の農畜産物が大量に輸入されるようになった。また、農業の担い手の高齢化や兼業化の進行によって農業経営は厳しさを増している(図4)。
4 現在は、生産性の高い農畜産物への特化や、産地のブランド化、農薬の削減などにより、収益構造を高める努力が進められている(写真2)。



↑7 日本の木材供給量・自給率の推移



↑8 日本の漁業別漁獲量と魚介類輸入量の推移

### 林業の動向

日本の国土の約7割を占める森林は、第二次世界大戦後の復興需要などで成長の早い針葉樹の植林が推奨されたため、スギ、マツ、ヒバなどの人工林が多くなっている。しかし、1964年に木材輸入が全面自由化されたため、安い外国産材の流入によって、林業経営は厳しくなり、木材自給率は2002年まで減少を続けた(図7)。近年は、過伐採への対策と現地産業の保護から、東南アジア諸国では丸太の輸出規制が進み、合板用のラワン材の入手が難しくなった。その結果、合板の国産化が進み、木材自給率は上昇に転じている。

しかし、急傾斜地が多い日本の林業は規模も小さく、伐採と搬出にコストがかかり、担い手の高齢化も進んでいる。林野庁による「森林・林業基本計画」では、木材自給率を5割にすることを目標に、戦後に植林され50~70年の伐採適齢期を迎えている国産材の利用を推進している(写真5)。

まとめ 日本の農林水産業は、経済や環境の変化に対応しながら、農業の多機能化、林業の人材育成と国産化、水産資源の回復や消費拡大など、維持、発展のあり方を模索している。

### 水産業の動向

日本周辺の海域では、暖流からはまぐろ、かつお、いわしなどが北流し、寒流からはさけ、さんまなどの回遊魚が南下してくる。そのため、暖流と寒流が接する潮境付近が豊かな漁場になっている(写真6)。日本の漁業従事者の9割近くは個人経営で、小型船による沿岸漁業に従事している。一方、日本の漁獲量の4割以上は、排他的経済水域(EEZ)内で操業される沖合漁業によるもので(図8)、日本各地に拠点となる漁港がある。遠洋漁業は、各国がEEZを設定したことなどにより衰退したが、かつおやまぐろを中心に、公海や、協定を結んだアフリカやオセアニアの国々のEEZで漁を続けている。

一方で、近年は魚介類の国内消費量が減少傾向にあり、2016年度には肉類の国内消費量を下回った。水産業の維持・拡大には魚介類の消費拡大が必要となるため、ライフスタイルの変化にあわせた商品開発や消費を促す啓蒙活動が進められている。

農業・林業・水産業の推移をあらわす主要な統計を掲載しました。時代による発展や衰退をグラフの変化から追うことができます。

世界の林業・水産業に関する記述と関連づけて、日本の動向を整理しました。

思考力・判断力の育成 日本の農業・林業・水産業のもつ構造的な課題とともに、維持・発展に向けた動きをとりあげて、解決に向けた今後の展望を考えさせます。

知識の獲得・整理 左ページでは、日本の農業の現状と課題を、順序だてて整理します。

- 1 日本の農業の特徴
2 主食の米や小麦の歴史的变化と課題
3 主食以外の動向と課題
4 新しい動き

ワード 土地改良 減反政策 食料自給率 指定産地 輸入自由化 高齢化 兼業化 都市農業 植林 木材自給率 合板 沿岸漁業 沖合漁業 遠洋漁業 排他的経済水域

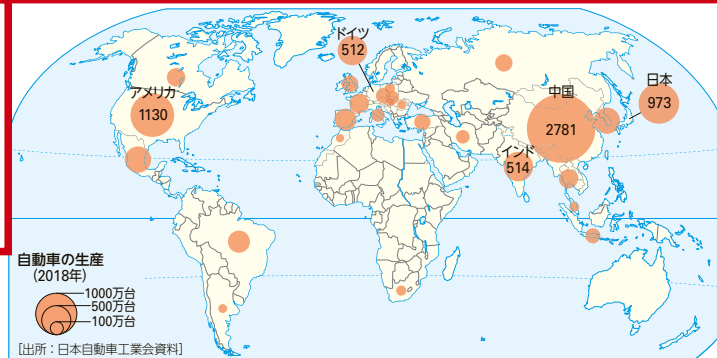
問いかけ から まとめへ 「新しい視点」と同様に学習内容の確認をはかります。

経済成長を牽引する工業の新しい動きについて解説します

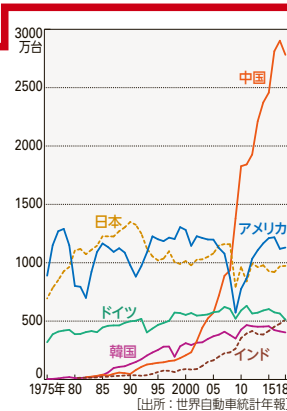
教 p.110-111



輸出自動車と自動車運搬の専用船 (名古屋港, 2017年11月撮影)



世界の自動車生産

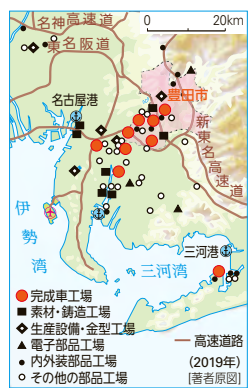


世界の自動車生産の推移

イントロ

基幹工業としての自動車工業はどのような歩みを経て、国際的なネットワークをもつようになったのだろうか。

ハイブリッド車 ガソリンで動くエンジン(内燃機関)と、電気でも動くモーター(電動機)といった複数の動力源をもつ自動車の通称。燃費や環境性能に優れている。



豊田市の自動車製造業の系列工場の分布

知識の獲得・整理 自動車産業の現状を理解するために、段階を追って整理します。教p.112からの国際分業・多国籍企業の理解へとつながります。

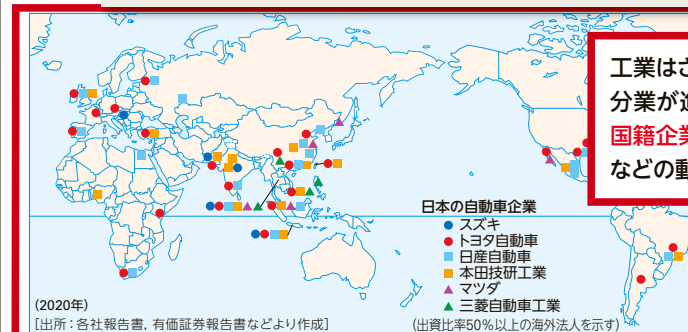
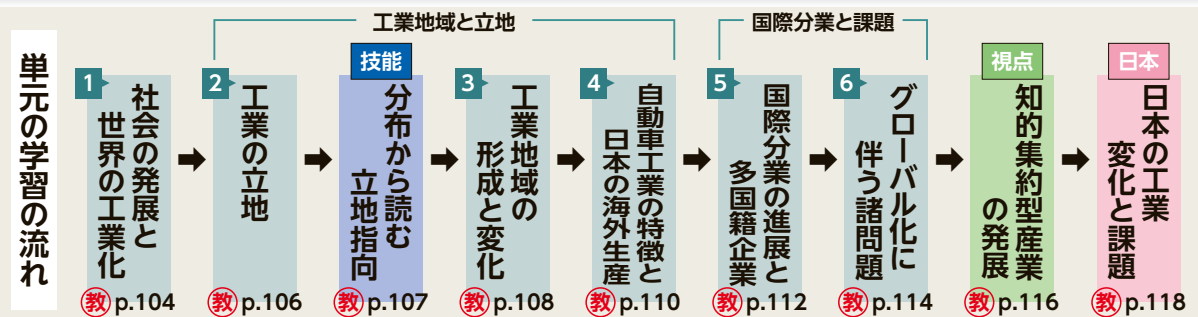
- 1 現在に至る歴史的な発展
2 総合組立産業としての立地
3 日本を事例とした海外生産の発展

4 自動車工業の特徴と日本の海外生産

自動車工業の成長 1880年代に登場したガソリン自動車の生産は、1910年代には流れ作業による大量生産方式が導入され、飛躍的な発展を遂げ、モータリゼーションの時代をもたらした。一方、1920年代には軽油を燃料にしたディーゼル自動車が開発され、トラックやバスという輸送手段も可能になった。主要先進国では、第二次世界大戦後までに自動車工業が基幹工業になった。生産国としては、かつてはアメリカ、ドイツ、フランスがリードしていたが、1970年代には日本が急成長し、1980年代には世界最大の自動車生産国になった(図3)。しかし、2000年代以降は、中国、韓国、インドで生産が急増している(図2)。

現在の自動車生産は、世界各国の自動車企業の資本提携や部品供給など、相互に密接に結びついており、グローバルな生産ネットワークが広がっている。さらにハイブリッド車や電気自動車など環境に配慮した開発も進んでおり、技術面でも国際間の競争と連携が深まっている。

自動車産業の総合組立産業としての立地 総合組立産業ともよばれる自動車工業は多分野にわたる部品から構成されているため、工場間、企業間での分業化が進みやすい。特に、関連工場や下請工場が一つの地域に集中する傾向が強い。例えば、ドイツのヴォルフスブルク、フランスのミュルーズ、愛知県豊田市などは、企業城下町を形成している(図4)。アメリカの自動車産業はデトロイトなどの五大湖沿岸から中部のテネシー州まで広い範囲にわたっている。



日本の自動車企業の海外での乗用車組立工場 1980年代から本格化した海外生産は、近年では、中国やインドなどの新興大国での増加が目立つ。オセアニアからの撤退や、EUから離れたイギリスからの生産の引き上げなど、貿易環境の影響を受け海外生産にも変化がみられる。

工業はさまざまな技術革新を経て、世界各国に広がり、現在では、国際分業が進んでいます。各項目ごとの基本となる知識を整理しつつ、「多国籍企業の現地化」「サプライチェーンの確立」「ソフト化する工業生産」などの動きを取り上げ、新しい工業の動向に対応しています。

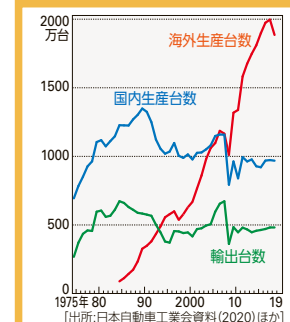


中国の日系自動車工場(武漢市, 2020年3月撮影) 年間70万台にのぼる組み立てが行われる世界有数の生産拠点である。

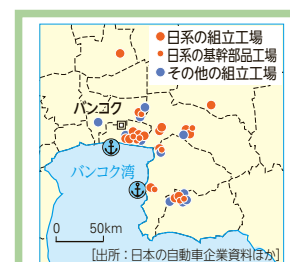
日本の自動車企業の海外生産 日本の自動車企業の国内生産台数は、かつての世界首位から2018年現在、3位となっているが(図3)、海外生産台数を加えれば年間3000万台に近く、依然として自動車生産大国であることに変わりはない(図7)。

日本の自動車工業の海外展開は、1960年代のアジアやオーストラリアなどへのノックダウン輸出に始まった。これは、完成品を輸出するのではなく、日本から一揃いの部品を輸出し、現地工場を組み立てて供給する形態である。さらに1970年代後半に、アメリカとの貿易摩擦が問題になると、アメリカの貿易赤字解消から現地生産が求められ、本格的な海外生産が始まった。アメリカ中西部には、日本からさまざまな部品工場が進出して、現地の組立工場の系列下に組み込まれ、日本企業による現地生産体制が生まれた。石油危機後は、ガソリン価格が高騰したため、小型で燃費のよい日本車が強い市場競争力をもつようになった。また、1980年代に入ると、日本企業の現地生産は東南アジアやメキシコ、ブラジルでも本格化し、EUの発足以降はヨーロッパ市場をねらって、フランスやチェコへの工場進出が進んだ。さらに2000年代以降は、中国やインド、ロシアなど新興大国への進出が続いている(図5)。

海外生産が進むなか、自動車の製造が国境をこえて行われるようになった。完成車の貿易には関税が課せられるため、これまで組立工場は国ごとにおいて関税を回避し、一方、部品についてはある国の特定工場に生産を集中させて、そこから調達することで、効率化をはかってきた。自由貿易圏が設定され関税がかからなくなると、東南アジアではタイに生産を集中させるなどの動きもみられるようになった(図8)。



日本の自動車企業の国内生産・輸出・海外生産の推移



タイ・バンコク付近の自動車工場の分布

思考力・判断力の育成 本文の日本の自動車工業の年代別の変化を、グラフの推移と比べることで、理解を深めることができます。

地誌学習との連携 タイへの多国籍企業の進出については、地誌の東南アジアの工業の単元で輸出加工区や工業団地などを扱っており、地域の事例としてより具体的に学習することができます。→教p.218

- まとめと探究
1 自動車産業が地域的に集中し、企業城下町を形成するのはなぜだろうか。
2 日本の自動車メーカーの海外進出は今後どのように変化するか考えてみよう。

教 p.132-133

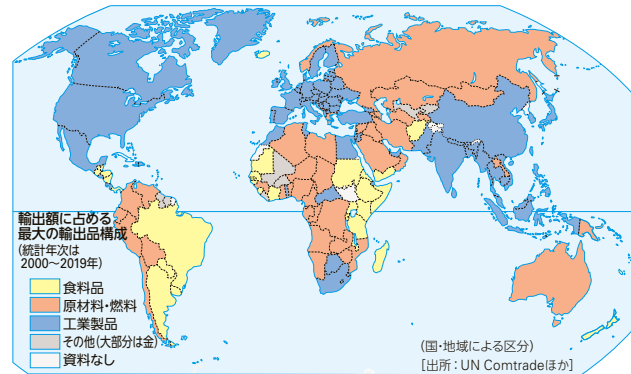
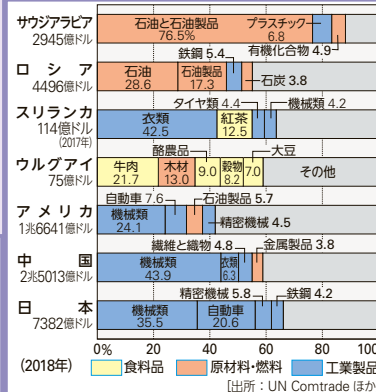
系統分野の冒頭に各節に関連の深いSDGs目標マークを取り上げています。

## ② 貿易・観光

本節の学習に関連するSDGs



知識の獲得・整理  
冒頭では、グラフと世界図から世界各国の輸出品目の状況を読み解きながら、本文の理解を深めていきます。



↑1 おもな国の輸出品目

↑2 各国の輸出額1位品目

### イントロ

先進国と途上国にはどのような貿易構造がみられるだろうか。また、自由貿易を推進するためにどのような国際的な取り組みが進められているのだろうか。

### 言葉の整理

**南北問題と南南問題**  
先進国と途上国の経済格差を地理的な位置から南北問題とよぶ。一方、途上国のなかでも、新興国や産油国と、サブサハラアフリカの最貧国の経済格差を南南問題とよぶ。

① **特惠関税** 先進国が途上国から輸入を行う際に関税率を引き下げるもので、途上国の支援を目的とする国際的な関税制度。



## 1 世界を結ぶ貿易

**世界の貿易と広がり** 国家間の物資やサービスの取り引きのことを貿易とい

い、輸入と輸出からなる。世界の国々は自国に有利なものを生産し、輸出入しあうことで結びついている。図1と図2で各国の輸出品目をみると、日本をはじめとするアジアの大部分やヨーロッパ、北アメリカでは工業製品が輸出額の大部分を占めているのに対し、アメリカや南アメリカでは、食料品や原材料・燃料などの1次産品の輸出が多いことがわかる。一方、こうした物資の貿易に対し、金融や特許、技術など、目に見えないものの売買をサービス貿易という(図4)。

**貿易構造の変化** 1960年代までは、途上国が1次産品を生産して先進国に輸出し、先進国はそれをもとに工業製品を生産する

という垂直分業がほとんどだった。その結果、途上国では1次産品の輸出に依存するモノカルチャー経済(単一経済)が拡大し、先進国との経済格差が大きくなり、南北問題とよばれるようになった。そのため、国連貿易開発会議(UNCTAD)などの呼びかけで、途上国の発展途上国からの輸入関税を引き下げるようになった。1980年代に入ると、先進国との間で工業製品が盛んになった。さらに、2000年代には、途上国でも工業製品を生産する企業が増え、途上国間の貿易も急増した(図3)。中国では工業生産額の輸出大国になった。

### 言葉の整理 欄外を使って類似・対比する地理用語を整理しました(全30組)

- プレートと地殻とマントル
- 干拓と埋め立て
- 日較差と年較差
- 熱帯雨林と熱帯季節林
- 硬葉樹と照葉樹
- コケ類と地衣類
- 盛土と切土
- 硫酸酸化物と窒素酸化物
- 労働生産性と土地生産性
- 粗放的農業と集約的農業
- 遺伝子組み換えとゲノム編集
- 沿岸漁業・沖合漁業・遠洋漁業
- レアメタルとレアアース
- LPGとLNG
- 輸入代替型の工業化と輸出指向型の工業化
- 空間距離と時間距離
- 南北問題と南南問題
- FTAとEPA
- 対外直接投資と対内直接投資
- NGOとNPO
- 人口ボーナスと人口オーナス
- Push型とPull型の人口移動
- 公用語と母語
- 語族と語派と諸語
- 自然的国境と人為的国境
- 華北・華中・華南
- 華僑と華人
- 海峡と地峡
- ネイティブアメリカンとインディアン
- フロストベルトとサンベルト

### 地理の話題 サービス貿易の発展

国家間の経済活動が活発になった結果、物資の貿易と並んで、サービス貿易(図4)の重要性が増し、世界貿易に占める割合は約2割に達している。例えば、外国旅行でホテルに宿泊すると、外国の事業者から観光サービスの提供を受けていることになる。また、日本においても、外国企業の通信販売を利用したり、来日アーティストの公演に出かけたりすると、外国のサービスを受けていることになる。さらに、外国資本の飲食店で食事しても外国のサービスを受けていることになり、いずれもサービス貿易に含まれる。

一方、外国企業による、国内での通信販売などの経済活動への課税や、特許、商標、著作権などの知的財産権の保護は、デジタル化やインターネット環境が変化し、従来の貿易の国際ルールでは十分に保証できなくなってきており、国家間の貿易協定や国際条約を見直そうという動きもある。

**1 国境をこえる取り引き(アウトソーシングなど)**

例 コールセンターの海外へのアウトソーシング

海外から対応

そのほか 外国のカatalog、通信販売の利用など

**2 海外における消費**

例 外国への観光旅行

海外旅行

サービス消費

そのほか 外国の会議施設を使った会議の開催など

**3 業務上の拠点を通じたサービス提供**

例 海外現地法人が提供する飲食店サービス

海外拠点の設置

サービス消費

そのほか 海外支店を通じた金融サービスなど

**4 人の移動によるサービス提供**

例 外国人アーティストの来日による娯楽サービス

サービス消費

そのほか 外国人保守

↑4 サービス貿易の例

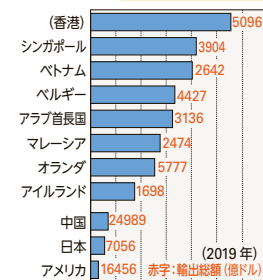
サービスを提供する国 (青) サービスを消費する国 (紫)

思考力・判断力の育成  
「サービス貿易」「輸出依存度」など、現代の生活とより密接した切り口の用語・概念をとりあげます。コラムで深めたり、グラフで可視化することで、従来にはない視点から貿易について考察することができます。

**貿易に特化する国** 貿易総額をみると、中国、アメリカ、ドイツ、日本など、国内総生産(GDP)の高い国が上位を占めている。

一方、小さな国や新興国、資源輸出国のなかには、輸出依存度が高い国がみられる(図5)。国土が狭く経済規模が小さいと、国内市場だけでは産業が成り立たないため、国外市場の開発や国際関係の強化がはかれる。海運の盛んなシンガポールやジブチ、オランダでは、周辺国から製品を集めて輸出する中継貿易が行われている。オランダは、機械類や医薬品のほか、高収益の花弁や野菜など、輸出の多角化をはかっている。輸出依存度が高くなっている。また、医薬品の輸出額が多いアイルランドのように、特定の製品や資源の輸出に大きく依存している国もある。

**貿易政策の発展** 第二次世界大戦までは、主要工業国は国内産業の保護のために関税同盟を結び、高率の関税をかけて自国経済を守る保護貿易が盛んだった。それが世界大戦につながり世界経済が停滞した反省から、戦後は国際通貨基金(IMF)や「関税と貿易に関する一般協定(GATT)」によって、輸入制限の撤廃や関税の引き下げがはかれる貿易の自由化が進められた。しかし、各国間の貿易収支の不均衡が拡大し、貿易摩擦が激しくなった。それに対して、世界貿易機関(WTO)は緊急輸入制限措置(セーフガード)を容認し、各国は再び、関税の引き上げや輸入制限によって自国産業の保護をはかっている。



↑5 おもな国の輸出依存度

① **世界貿易機関** GATTの自由貿易を発展させる形で発足した。現在160をこえる国が参加する。

② **セーフガード** 外国からの特定品目の輸入が増えすぎた際に、国内産業の保護のため政府が発動する関税引き上げや輸入制限措置。

知識の獲得・整理  
重要な事象や用語について、内容を補足しています。

### まとめと探究

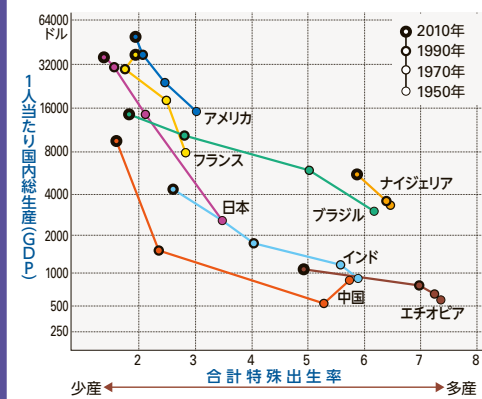
- 1 先進国と途上国とで輸出品目にはどのような違いがあるかまとめてみよう。
- 2 保護貿易のメリットとデメリットを考えてみよう。

教 p.148-149

人口増加地域は人口ボーナス、人口減少地域は人口オーナスという観点から人口問題を捉えさせます。図2からは、経済発展と合計特殊出生率の関係について考察することができます。



↑1 多くの子供をもつ一家(ウガンダ, 2017年撮影) 女性は12歳ごろに親が決めた相手と結婚し、38人の子供をもうけたという。子供たちは学校に行かず、洗濯や料理、たきぎ拾いをして家族を支えている。



↑2 おもな国の1人当たりGDPと合計特殊出生率 経済的に豊かになると、栄養や医療・衛生状態が改善し、乳幼児死亡率が下がり、教育や社会保障も整備されることで貧困と多産の連鎖を止めることができる。

4 人口増加地域、減少地域の人口問題

イントロ

人口増加や人口減少は「人口問題」としてとらえられることが多いが、何がどのように問題なのだろうか。

言葉の整理

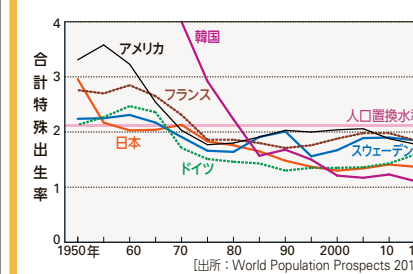
人口ボーナスと人口オーナス 人口ボーナスは一国の人口構成で、子供と高齢者が少なく、生産年齢人口が多い状態。豊富な労働力で高度の経済成長が可能になる。人口オーナスは、高齢者人口が急増する一方、生産年齢人口が減少し、経済成長の重荷になっている状態。多産多死社会から少産少死社会に変わる過程であられる。

①リプロダクティブヘルス/ライツ 子供をもつかもたないか、いつもつか、何人もつかを決める自由を有することを意味する。さらに、安全で効果的、安価で利用しやすい避妊法についての情報とサービスを手に入れることができることも含まれる。

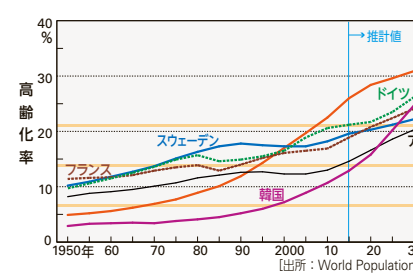
人口増加地域と人口ボーナス 2050年までの世界人口の増加の半分は、インドや東南アジアのインドネシア、サブサハラアフリカのナイジェリアやコンゴ民主共和国、アメリカなどの9か国に集中すると推計される。特に、サブサハラの合計特殊出生率は4.7と世界平均の2倍近く、2050年までに人口はほぼ倍増すると予測されている。

人口増加は、豊富な労働力と大きな市場をもつ可能性をもたらし、人口ボーナスを生かせれば、経済成長の絶好の機会になる。しかし、就労に必要な知識や技能を修得させる教育や増えた人口分の雇用の確保も必要になるため、人口の増加速度の調整が必要になる場合もある。

ナイジェリアの多産と貧困 ナイジェリアの人口は、現在、約2億で、2050年には4億まで増加し、インド、中国について世界3位になり、2100年には7億をこえると推計されている。中国やインドに比べ出生率の低下は緩やかで、ナイジェリアの人口は今後も急増が続く(図2)。ナイジェリアは、1日当たりの生活費が1.90ドル(約200円)未満で、極度の貧困状態(国際貧困ライン)とされる人口が世界最多の約9000万人と人口の半数近くに達しており、乳幼児死亡率も高い。医療衛生環境や社会保障が未整備な状態で暮らす人々にとって、子供は家計を助ける存在であり、貧しいほど多産になりやすい。母子保健を整備し乳幼児死亡率を下げるとともに、家庭や社会での女性の地位を高めるジェンダー平等など、リプロダクティブヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)を保障することも出生率低下の鍵になる。



↑3 おもな国の合計特殊出生率の推移



↑4 おもな国の高齢化率の推移

Table with 7 columns: Country, Year, Total fertility rate, Average age at first marriage, etc.

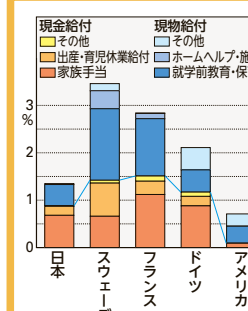
人口減少地域と人口オーナス 世界的に平均寿命が延びている一方で、出生率が低下している。高齢化率が7%をこえる社会を高齢社会、14%をこえる社会を高年齢社会、21%をこえる社会を超高齢社会とよんでいるが、世界の高齢化率は1割近くに達し、先進国のほとんどは高齢社会に移行している(図4)。2018年には、歴史上初めて世界の高齢者人口が5歳未満の子供の数を上回った。また、日本や東欧などでは死亡率が出生率を上回り、人口が減少し始めている。

人口ボーナスに対し、生産年齢人口の割合が減少し、養わなければならない高齢者や年少者が多くなる状態を人口オーナスとよんでいる。医療、年金、介護などの社会保障費の負担が重くなることで(図6)、社会全体の貯蓄や投資が停滞し、労働市場や経済成長の縮小も懸念される。

ヨーロッパの少子化への対応 高齢化や人口減少が進行する国々では、社会保障費の負担が過重にならないようするため、少子化対策に取り組んでいる。人口置換水準を下回ってはいるが、フランスやスウェーデンでは合計特殊出生率の回復傾向もみられた(図3)。これらの国では、子供への補助金、教育や医療の負担軽減など、資金面での援助とともに、男女対象の育児休暇取得や保育サービスの充実、ワークシェアリングによる短時間勤務、法律婚以外の多様な家族を認める法制など、結婚、出産、子育てや、就労に関して幅広い環境整備が進められており(表5)、合計特殊出生率の維持や回復に一定の効果を上げている。

リプロダクティブヘルス/ライツの尊重は、多産の地域では出生率を抑制する効果があるが、少子化が進んでいる地域では出生率を維持、回復させる方向にはたらく。

思考力・判断力の育成 資料から、各国の合計特殊出生率や高齢化率の推移を比較するとともに、その違いには、初婚年齢や労働時間、男性の家事育児参加、社会保障給付の割合など、さまざまな背景があることを考察させます。



↑5 おもな国の家族関係社会支出の対GDP比

まとめと探究

- 1 世界ではどのような人口問題がおきているか、まとめてみよう。 2 出生率の高低とジェンダー平等の関係を考えてみよう。

豆知識 知識の獲得・整理 本文に関連するトピや補足情報を載せています。話題を広げる題材として活用してください。

豆知識 貧困状況を示す指標は? 国際貧困ラインが生きるうえで必要な絶対的な貧困状況を示すのに対し、国や地域の大多数の水準よりも貧しい状態を相対的貧困という。先進国でも貧困とは無縁ではない。

ワード 人口ボーナス 国際貧困ライン ジェンダー平等 リプロダクティブヘルス/ライツ 高齢化社会 超高齢社会 人口オーナス 社会保障費

教 p.238-239 二つの地域を比較して考察

- 世界の諸地域を偏りなく学習できるよう、様々な規模の12の地域を取り上げています。
- 各地域は、「項目ごとに整理して考察」、「特色ある事象に関連づけて考察」、「類似的／対照的な地域を比較して考察」の三つの方法で考察しています。

特色ある事象と関連づけて考察

変化の大きい地域について、主題を軸に展開しています。 教 p.196

1 中国

経済成長に着目 経済成長による影響力拡大と国内外の課題について考察する



上海の高層ビル群 遠くの高層ビルと手前の古い建物上海の現代と近代を対照的に象徴している。



天安門(北京、2015年撮影) この楼上で毛沢東が中華人民共和国の建国宣言を行った。

1 経済の改革開放による変化

イントロ アメリカと並ぶ経済大国に成長した中国では、どのような国づくりが進められてきたのだろうか。

経済大国としての中国 中国の経済発展は著しく(図4)、国内総生産(GDP)ではアメリカに次いで世界2位、輸出額では世界の首位を占めている(図5)。

近現代の歩み 近代中国の辛亥革命の成立した。の間で主導権をめぐって...

中国の経済成長に着目

中国について、経済成長による世界への影響力と国内外の課題に着目して考察します。

「特色ある事象から考察する」地域事例と主題

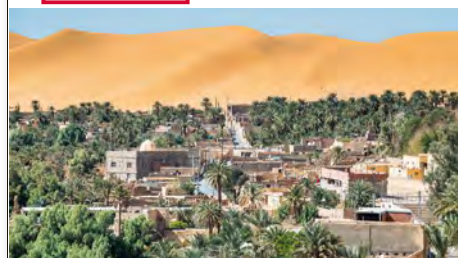
- 中国 経済成長
- 東南アジア 民族文化
- ヨーロッパ 地域統合

年	事項
1912	辛亥革命により中華民国成立
1937	日中戦争始まる
1945	第二次世界大戦終結
1949	中華人民共和国成立
1958	大躍進運動(1960年頃まで)
1966	文化大革命始まる(1976年まで)
1972	日中国交正常化
1978	改革開放政策始まる
1982	人民公社解体
1989	天安門事件
1997	香港返還
2001	世界貿易機関(WTO)加盟
2008	北京オリンピック開催

近現代の中国の歩み

6 北アフリカ・サブサハラアフリカ

対照的な地域を比較 南北で異なるアフリカ大陸を考察する



サハラ砂漠のオアシス集落(アルジェリア、2019年撮影)



マラウイ湖の漁業(マラウイ、2015年3月撮影) 大地帯の南端に位置し、魚類が豊富である。

1 自然環境と農業

イントロ 北アフリカとサブサハラの対照的な自然の特徴を比べてみる

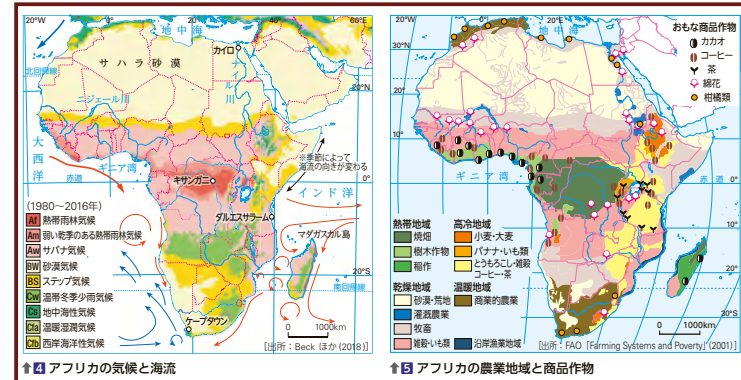
サハラ砂漠 アフリカ大陸を、サハラ砂漠(写真1)を境に南北に区分する...

さらに、近年は、サハラ砂漠より南のアフリカ、つまり、北以外のアフリカをサブサハラアフリカ(サブサハラ)とよぶ...

アフリカ アフリカ大陸は全体的に台地状の地形をしており、海岸線が単調で広い平野に乏しい(図3)。

アフリカの大断層 アンゴラから南アフリカ共和国の東部にかけて「グレートエスカーメント」と呼ばれる比約1,000kmの大断層がある。

二つの地域の対照性または類似性に着目して比較しながら展開しています。



アフリカ大陸を南北で比較

サハラ砂漠を境とした南北アフリカについて、気候、歴史的背景、文化、国際関係などの違いを比較しながら考察します。

「二つの地域を比較して考察する」地域事例

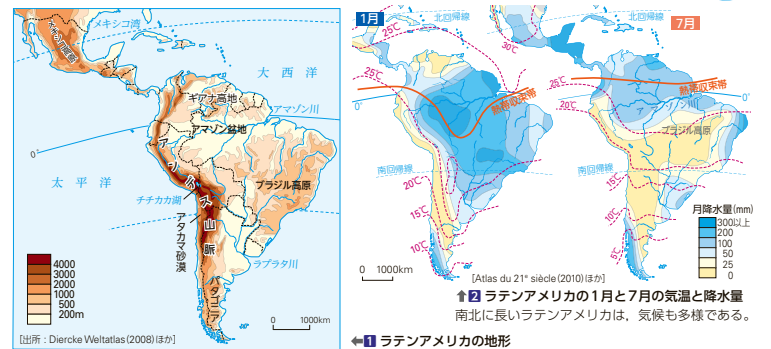
- 西アジア・中央アジア 類似的な地域
- 北アフリカ・サブサハラアフリカ 対照的な地域

項目ごとに整理

地域の全容について、各項目を順序立てて整理して展開しています。 教 p.272

10 ラテンアメリカ

項目ごとに整理 植民により国家が形成されてきた地域を考察する



イントロ

南北に長いラテンアメリカの多様な自然環境は農業の地域性とどのように関連しているのだろうか。

1 多様な自然環境と農業

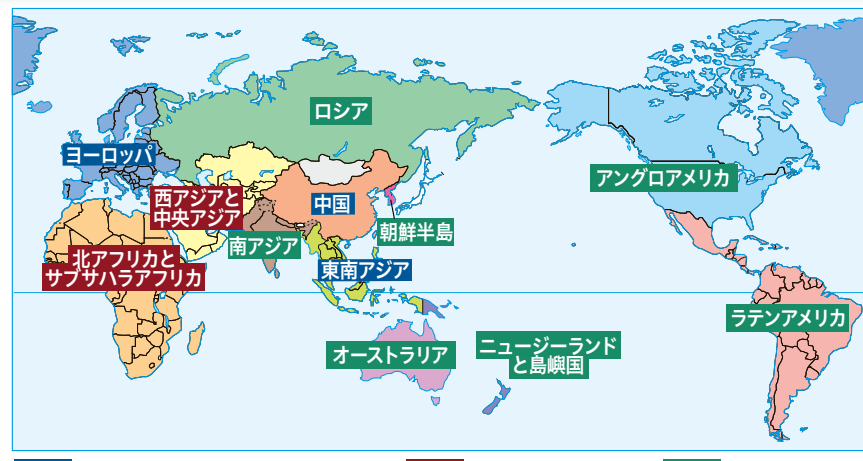
南アメリカ大陸の太平洋側には標高6,000mをこえるアンデス山脈が連なる。赤道付近にはアマゾン川が流れ、中部にはブラジル高原、最南端のパタゴニアには氷河や氷河地形がみられる(図1)。

ラテンアメリカを項目ごとに整理

ラテンアメリカを、自然環境、歴史、民族、鉱工業、政治・経済の新しい動きと項目ごとに整理して考察します。

「項目ごとに整理して考察する」地域事例

- 朝鮮半島
- 南アジア
- ロシア
- アングロアメリカ
- ラテンアメリカ
- オーストラリア
- ニュージーランドと島嶼国



特色ある事象と関連づけて考察 比較して考察 項目ごとに考察

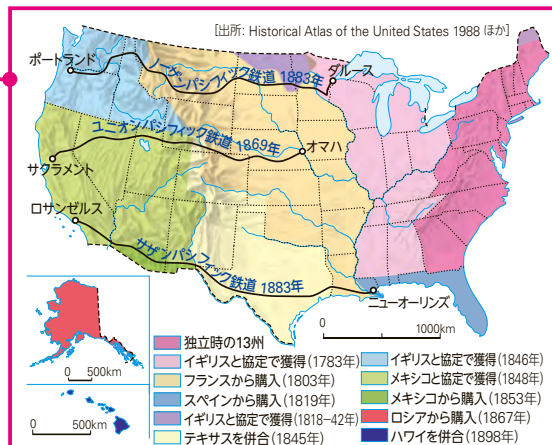
本書の地誌的考察で扱う地域

2節⑨ アングロアメリカ 2 社会の多様性と多文化社会

地誌分野では地域の全体像への理解を深めます

教 p.266-267

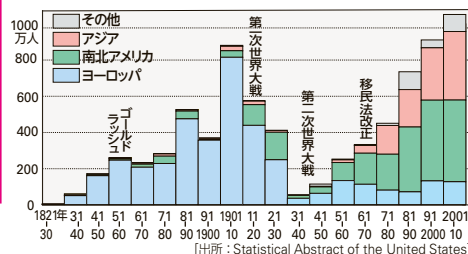
視覚的にわかりやすい図版(地図・グラフ)を多く掲載し、生徒の理解を促します。



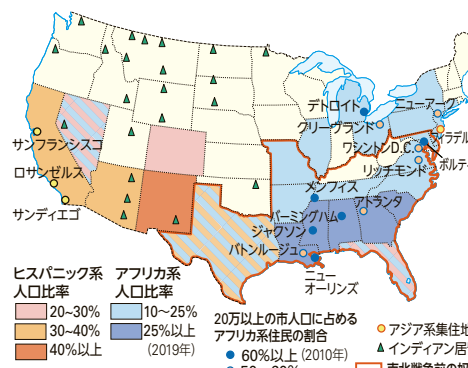
↑1 アメリカの国土の拡大 イギリスからアパラチア山脈の西方を獲得した後、1803年にミシシッピ川の西のルイジアナを購入し、1848年にはカリフォルニアを獲得した。



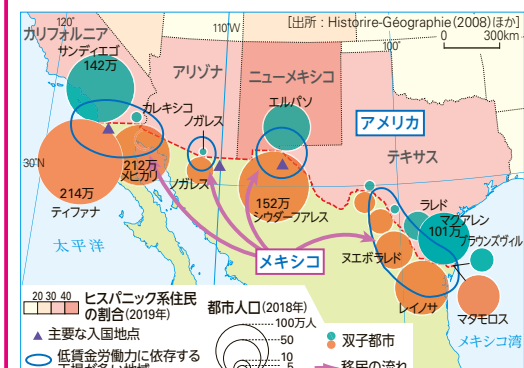
↑2 アメリカ国旗の日を記念するパレード(2009年撮影) 星条旗が合衆国の旗に採用された1777年から毎年行われる。



↑3 アメリカへの移民の推移



↑4 アメリカの民族構成の地域差 ヒスパニック系住民はメキシコと近接する南西部で、アフリカ系住民は南東部で割合が高い。一方、おもに乾燥地域や山岳地域の広がる西経100度以西にインディアン居留地がみられる。



↑5 アメリカ・メキシコの国境地域 国境付近には、メキシコの低賃金労働力に依存する工場などが立地する都市が発達した。また、輸出入や人々の出入国の拠点として成長してきた。近年、不法入国者に対する取り締まりが厳重になっている。

2 社会の多様性と多文化社会

イントロ カナダとアメリカの建国の経緯や移民の出身地域の変化は、それぞれどのように社会的特徴を生み出してきたのだろうか。

移民による建国と発展 アングロアメリカでは、インディアンと呼ばれる先住民のネイティブアメリカンから土地を奪うことで、17世紀にヨーロッパ系移民による植民が本格化した。カナダではフランス人による入植が始まったが、その後、イギリスの植民地になり1931年に実質的に独立した。アメリカはイギリス人による入植が始まり、1776年に東部13州が独立し、その後、移民が増加して、新しい州が次々とつくられた(図1)。開拓前線(フロンティア)は東部から内陸部、西部へと進んでいった。19世紀後半に、いくつかの大陸横断鉄道が相次いで開通すると、東部から西部への開拓民の移動が激しくなり、西部開拓はさらに進んだ。一方、ネイティブアメリカンは、西部の不毛な地に設けられたインディアン居留地にしだいに追いやられた。

ポイント補説 カナダでの国土開発 カナダに最初に入植したのはフランス人だったが、その後、イギリス人に支配が移った。そのためイギリス系移民によって開発が進められ、現在もイギリス

移民の出身地の変化 アングロアメリカでは、時代ごとに移民の出身地が変化しており、住民構成は複雑になっている。アメリカでは、独立時にはイギリスからの移民が中心で、その流れをくむWASP

民族構成の地域差 移民の流入や人口移動の歴史から、アメリカ各州の民族構成には地域差がみられる(図4)。民族構成の中心はヨーロッパ系住民で、全土に居住しているが、移民の増加によって、人口に占めるヨーロッパ系の割合はしだいに減少している。アフリカ系住民の比率は、奴隷制度が長く続いた南部諸州のほか、20世紀の工業化による人口移動を背景に、北部の一部の大都市でも高くなっている。

ヒスパニック系住民は、メキシコとの国境近くの州で増加している。二国間を連絡する幹線道路には、国境を挟んで双子都市とよばれる二つの都市が発達し(図6)、メキシコ側には安価な労働力を背景にマキラドーラを活用した工場群が広がっている。メキシコからアメリカへの不法入国者も多く、国境付近では厳重な取り締まりが行われている。

アジア系住民はロサンゼルスなどの太平洋岸の諸都市に多いが、ニューヨークなどの東部の大都市でも増加している。大都市の市街地では、特定の民族や文化集団が集中して暮らす、人種や民族の住み分け(セグレーション)も生じている(写真7)。

多民族・多文化社会 アングロアメリカには歴史を通して多くの移民が流入し、多民族社会を形成してきた。アメリカでは、多様な文化や慣習をもつ人々が互いを尊重し合い、共存する社会が理想とされ、民族のサラダボウルとたとえられている。カナダでは、フランス系住民の多いケベック州と、イギリス系の住民が多数を占めるほかの地域との対立が続いたため、英語とフランス語の両方を公用語と定め、双方の共存をはかっている(図4)。このようにして、すべての人が尊重され、平等に社会参加できるような多文化主義をめざしている。



↑7 チャイナタウン(サンフランシスコ) 中国系アメリカ人の集住地区で、観光客も多い。

マキラドーラ アメリカとメキシコ間の委託加工制度の一種。完成品をメキシコから国外へ輸出することを条件に、原材料などを国外から輸入する際に関税などを減免するメキシコの制度である。

民族のサラダボウル 社会を一つの皿に見立て、異なる民族や文化集団がそれぞれの個性を活かし共存しながら、全体として調和している状態をいう。

まとめと探究 1カナダとアメリカの建国の歴史や移民の出身地の変化をまとめてみよう。 2アメリカやカナダにおける多様な背景をもつ人々の共生に向けた取り組みを調べてみよう。

見開き単元で学ぶことについて、着目点を示した導入文です。

ポイント補説 新しい動きや具体的な状況を取り上げ、本文を補足します。 天井川 風によって運ばれるレス 水管理と国際協力 寒流と霧 内水面漁業 アフリカで自給生産が伸び悩む理由 アフリカへの日本の稲作支援 エシカルな調達・消費 成長する情報通信市場 ささまざまな専用船 テレワーク 地球が養える人口は?

都市の持続性(サスティナビリティ) 文化の定義 日本の着物 高床式住居 ハラルム/ハラーム 大きな政府と小さな政府 時代によって異なる地域区分 戸籍がない子供たち 中国の三農問題 中国の特許出願 マングローブ シンク教

ハリジャンの優遇策 カナート イスラムの五行 西アジアの3大言語 中央アジア5か国の文字 揺らぐシェンゲン協定 EUの地理的表示制度(GI) イギリスのEU離脱 カナダでの国土開発 ブラジルの首都移転 乳製品の輸出先の変化 文献調査の資料例

ワード ネイティブアメリカン 開拓前線(フロンティア) インディアン居留地 WASP 奴隷制 ヒスパニック 双子都市 セグレーション 多民族社会 民族のサラダボウル 多文化主義

見開き内で取り上げた重要用語を欄外のワードにまとめています。定期考査や受験対策としてご使用いただけます。



地域の話題 地誌の学習をさらに深める 22 のコラム

各地域の新しい動向や深掘りしたい内容に焦点をあてます

教 p.201

地域の話題 中国の品種改良とスマート農業

中国では2000年代後半以降、農産物の増産が進んでいる。その背景にはハイブリッド米などの優良品種の登場やトラクター・田植え機の普及などの機械化の進展がある。また、AI技術の導入によって、農業のスマート化が進められ、耕作のリモートコントロール、水や肥料・農薬の最適化が行われ、無人田植え機も登場している。

⇒4 ハイブリッド米の収穫(貴州省, 2019年撮影) 異なる二つの品種を人為的に交配してつくられたコメで、収穫性にすぐれている。中国だけでなくアジアやアフリカにも広がり、米の増産に貢献している。



教 p.243

地域の話題 アフリカでの産業多角化への動き

近年、アフリカでも新しい発展の動きがみられる。多くの国で高い経済成長率を示すようになり、植民地時代に始まった「モノカルチャー経済」という言葉だけでは説明がつかなくなってきている。

例えば、ケニアの首都ナイロビの北西約70kmには、ヨーロッパ資本によって一大温室園芸産地が造成され、バラなどの切り花がオランダを経て世界の市場へと出荷される。植民地時代からの茶やコーヒー豆の農園経営に加え、付加価値の高い切り花の輸出は新たな雇用を生み出している。また、エチオピアでは工業化の進展により、急速な経済成長をみせている。首都のアディスアベバには工場団地が生まれ、中国や韓国、インドなどから工場が進出した(写真4)。いずれの場合も、アフリカの豊富で安価な労働力が、輸出向けの生産能力を向上させた。アフリカ各国の経済発展には、産業の多角化に加え、外国からの投資や輸出に向けた輸送路などが重要な条件になる。



↑4 縫製工場(アフリカ, 2018年) 多くの雇用を生み出した。

コラムの例

- 台湾の経済発展
- 中国の品種改良とスマート農業
- 中国の周辺地域への影響
- ドバイの発展戦略
- 人口増加と社会の変化
- アフリカでの産業多角化への動き
- 多極化する世界とアメリカ
- 多文化共生に向けて など

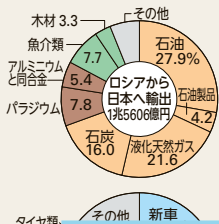
教 p.263

各地域と日本との結びつきに焦点をあてます

地域の話題 ロシアと日本の結びつき

ロシアと日本は、平和条約が締結されておらず、北方領土問題もあって、貿易や交流はあまり進んでいなかった。しかし、ロシアの極東地域の開発とともに進展しつつある。ロシアから日本へは、石油や液化天然ガスなどのエネルギー資源が、日本からは、自動車や機械類などが輸出されている(図6)。ロシアでは、丈夫で性能のよい日本車の人気が高く、一時期、中古の日本車が大量に輸入されていたが、近年では大きく減少している。ロシア政府の安全規制により輸入が難しくなったため、本国での自動車生産に力が入れている。外国からの自動車企業の工場進出も盛んになっており、日本企業もサンクトペテルブルクやウラジオストクなどに工場をおいている。

⇒6 日本とロシアの貿易品目 ロシアからは鉱産資源の輸出が8割近くを、日本からは機械類などの輸出が8割近くを占め、対照的である。



コラムの例

- 文化を通じた日韓の交流
- 東南アジアと日本の交流
- インドの自動車工業と日本企業
- ロシアと日本の結びつき
- ブラジルの日系人
- オーストラリアと日本の結びつき



地球的課題の考察

地球的課題の背景や影響、対策をSDGsとともに考察します

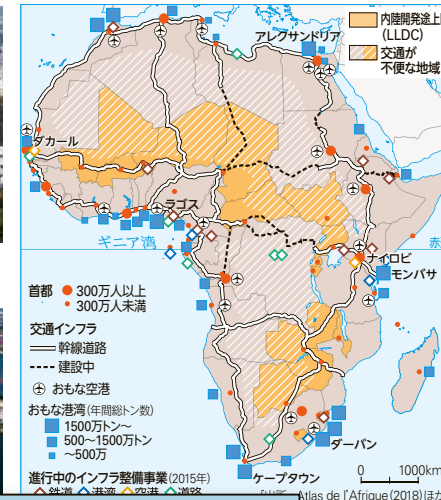
教 p.245

地球的課題の考察

成長に向けた交通インフラ戦略



↑4 アルジェリアで建設中の高速道路(2016年3月撮影) サハラ横断道路の整備が、中国による支援で続けられている。



地球的課題に着目

六つの地域について、各地域のかかえる地球的課題を取り上げ、SDGs(持続可能な開発目標)を意識させながら、生徒の探究活動を促します。

教 p.219

地球的課題の考察

シンガポールにおける水資源の確保

シンガポールは、工業化による経済発展を遂げた、人口密度の高い都市国家である。しかし、国土面積が狭く水資源に乏しいため、1960年代からは国内で使用する水の多くをマレーシアからの輸入に依存してきた。そのため、自国内で水資源を自給することをめざし、さまざまな取り組みを行っている。降水を効率的に利用できるように貯水池を増やしたほか、都心部の湾を堰き止めるマリーナバレージとい

う施設をつくり、淡水化した水を貯められるようにした(写真4)。また、下水を最先端技術により高度処理して「ニューウォーター」として再利用する施設や、複数の海水淡水化施設も稼働している。その結果、シンガポールの水自給率は70%に達した。さらに培った淡水化技術により、シンガポールは水ビジネス大国となり、オーストラリアや西アジアの乾燥地域など水不足地域に技術を展開している。

⇒4 マリーナバレージ(シンガポール, 2020年撮影) 写真中央の長さ350mの堰の奥側が湾内。貯水機能だけでなく、シンガポールの低地を洪水から守る役割も果たしている。



考察 シンガポールでの水資源の確保の取り組みは、SDGsの目標達成にどのようにつながるだろうか。また、乾燥地域でも同じ対策が有効であるか考えてみよう。

地球的課題のテーマとSDGsの視点

- |               |                  |    |    |
|---------------|------------------|----|----|
| p.219 東南アジア   | シンガポールにおける水資源の確保 | 6  | 11 |
| p.227 南アジア    | 農村地域の貧困と教育・ジェンダー | 1  | 5  |
| p.237 西・中央アジア | 地域紛争と国際社会の動き     | 16 | 17 |
| p.245 アフリカ    | 成長に向けた交通インフラ戦略   | 9  | 11 |
| p.251 ヨーロッパ   | 旧ユーゴの独立と少数民族     | 3  | 10 |
| p.277 ラテンアメリカ | 熱帯林地域の持続可能な開発    | 12 | 15 |

整備、経済統合の強化に向けた支援を行っている。

考察 アフリカでの交通インフラの整備では、どのようなことが課題になるだろう。北アフリカとサブサハラ、沿岸国と内陸国など地理的条件を比べながら考えてみよう。

生徒自ら考察し、表現させる問いかけ

本コラムには生徒自らが考え、表現させることをねらいとした「考察」を設けています。

これまでの教科書では見られなかった「海洋」を取り上げました。海を通じた交易や文化交流の歴史、結びつきの変化など、海洋の地図でとらえることで、新しい世界観が浮かび上がってきます。

環日本海(経済)、環インド洋(文化)、環大西洋(政治)、環太平洋(自然)を舞台に、地域のつながりを考察します。

教 p.290-291

海洋からみた世界のつながり④ 環太平洋～開発と海洋保護

第二次世界大戦後、環太平洋地域では多くの独立国が生まれた。豊かな海洋資源に恵まれているが、先進国や新興国による援助に依存し、開発に伴うさまざまな課題に直面している。どのようなことが課題となっているのだろうか。

豊かな写真資料

各海洋ページには、それぞれのテーマに即した資料性の高い写真を掲載しています。「海洋」の今を読み解くうえで、考えるヒントとなります。

各地域を学習したうえで、その地域と関係の深い海洋ページを設けています。



↑1 パラオ・違法漁船の取り締まり(2016年9月撮影) パラオはアメリカと自由連合関係にあり、アメリカの沿岸警備隊が違法漁船に対する取り締まりにあっている。



↑2 ミッドウェー諸島・アホウドリの営巣地(2012年3月撮影) 太平洋を横断する飛行機の給油地であったが、現在は国立の野生生物保護区になっている。



↑4 タヒチ島・サーフィンを楽しむ人々(2020年10月撮影) 2024年のパリ五輪ではサーフィン競技の会場となるが、観光開発による環境破壊が懸念されている。



↑3 ニッケル鉱山(2014年1月撮影) 島の一方で、固有種が多く暮らす環境に配慮している。

海洋ページの配置箇所

- ① 中国
- ② 朝鮮半島
- 海洋① 環日本海～海上輸送の発達
- ③ 東南アジア
- ④ 南アジア
- ⑤ 西アジア・中央アジア
- ⑥ 北アフリカ・サブサハラアフリカ
- 海洋② 環インド洋～交易と宗教文化
- ⑦ ヨーロッパ
- ⑧ ロシア
- ⑨ アングロアメリカ
- ⑩ ラテンアメリカ
- 海洋③ 環大西洋～結びつきの変化
- ⑪ オーストラリア
- ⑫ ニュージーランドと島嶼国
- 海洋④ 環太平洋～開発と海洋保護



海洋を中心に据えた地図

各海洋ページには、それぞれのテーマに即した要素を配置した地図を用意しています。海洋をとりまく国や地域のつながりが一目でわかる地図となっています。

↑5 環太平洋地域(ヴァンデルグリテン第1図法)

太平洋の今 イギリスがTPP11のメンバーになる?



↑6 ピトケアン島に近づいた貨客船(2020年5月撮影) ニュージーランドから貨客船が就航しているが、大型船は接岸できないので小さな船に乗り換える必要がある。

イギリスは、2021年にTPP11協定への加盟を申請した。イギリス本土は太平洋に面していないが、メンバーにはオーストラリアやニュージーランドなど英連邦に加盟する国も多く、イギリスはこれらの国との間での自由貿易の実現をめざしている。それとともに、イギリスがポリネシアに領有しているピトケアン

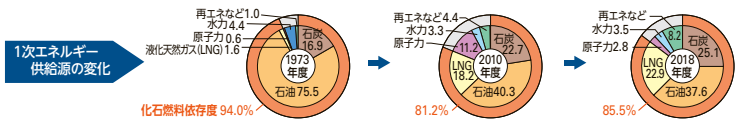
各海洋の「今」をとらえるコラムを設けました。海洋の役割がますます重要になるなか、世界の新しい動向をおさえます。

- 日本海の今 見直される日本海の内航水運 ～敦賀港
- インド洋の今 セシルワ ～セーシールのクレオール文化
- 大西洋の今 再び注目される喜望峰ルート



現状の確認 日本のエネルギー資源の自給と消費の現状

- 日本の1次エネルギーの自給率は1割未満で、化石燃料はほぼ全量を輸入している。1次エネルギー純輸入量は中国に次いで世界第2位で、世界のエネルギー供給量の約3%を輸入している。
- 石油危機後はエネルギー源の多様化(脱石油)がはかられ、原子力と天然ガスの導入が進んだが、2011年の福島第一原子力発電所の事故後は、再び化石燃料への依存度が高まっている(図1)。
- 2016年のパリ協定の発効によって、日本は2030年までに二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を2013年比で26%削減する義務が課され、政府は脱炭素社会の実現をめざして「2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする(カーボンニュートラル)」という目標を掲げている。
- 福島第一原子力発電所の事故後、一時、国内すべての原子力発電所が運転を停止した。その後、新規規制基準の審査に合格した発電所から再稼働したが、安全性、もんじゅ廃炉による核燃料サイクル事業の見直し、高レベル放射性廃棄物の最終処分場の選定など課題は多い。
- 2018年の北海道胆振地方東部地震では北海道全域に停電「ブラックアウト」がおきた。また、翌2019年には台風15号の暴風で千葉県で大規模な停電が発生、長期化し、住民生活に打撃を与えた。

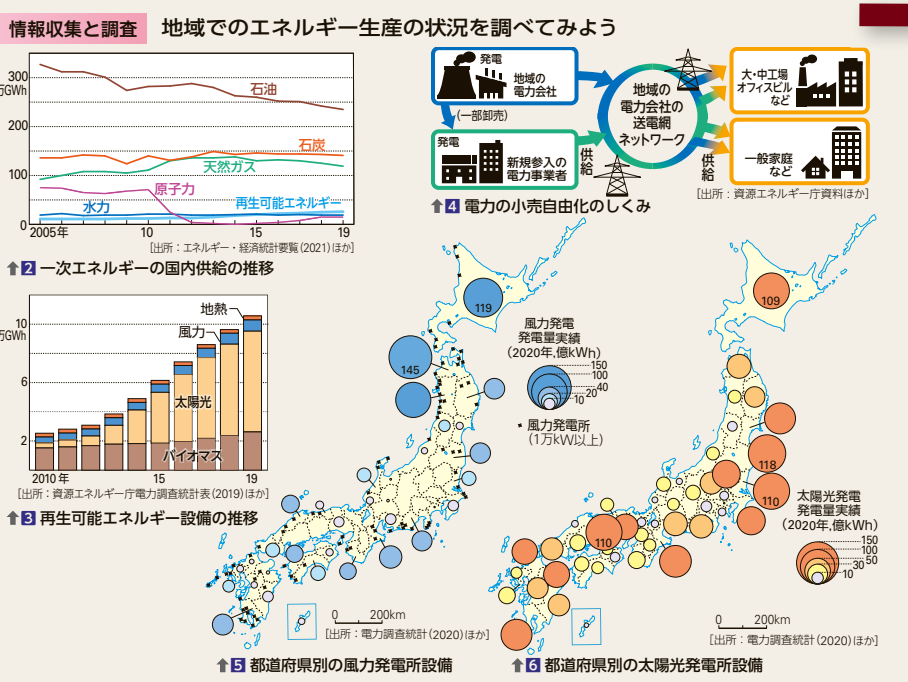
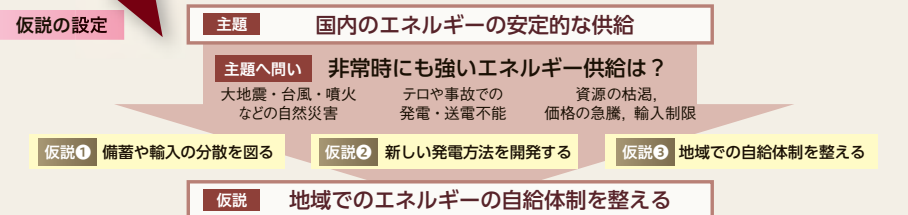


第1の選択	第2の選択	第3の選択	第4の選択	第5の選択
国内石炭から石油へ (60年代)	2度の石油危機 (70年代)	自由化と温暖化 (1990年代)	東日本大震災と原発事故 (2011年)	パリ協定50年目標 (2030年)
自給率の劇的低下 エネルギー自給率 58%(60年) → 15%(70年)	価格の高騰 電気代(70年=100) 100(70年) → 203	京都議定書 (1997年)	最大の供給危機 安全という価値	多くの国が参加 野心的目標を共有

1960年~ 1970年~  
脱石油(国内炭→原油)  
日本のエネルギーの発展の歴史と

イントロ  
日本の地理的課題の一つに、生命と生活を守るためのエネルギー(特に電力)の確保が求められる。資源の乏しい日本の

Step② 仮説の設定  
情報収集と調査  
探究すべき仮説を設定し、探究活動を始めます。各種の文献やインターネットで必要な資料を集め、調査をしていきます。第Ⅲ編では教科書紙面右側ページの欄外に「情報源」を設け、自ら調べて、学習のヒントとなる資料やサイトを紹介します。



系統地理の全ての分野からテーマを取り上げています。

国土像の考察テーマと関連するSDGs

- ① 自然災害に強い国土をめざすには 11 14 15
- ② 産業の変化と持続可能な成長 9 12
- ③ 人口減少社会を活性化するためには 8 11
- ④ 多文化共生社会の実現をめざして 3 5 10
- ⑤ エネルギーの安定供給をめざして 7 9 11

系統地理分野

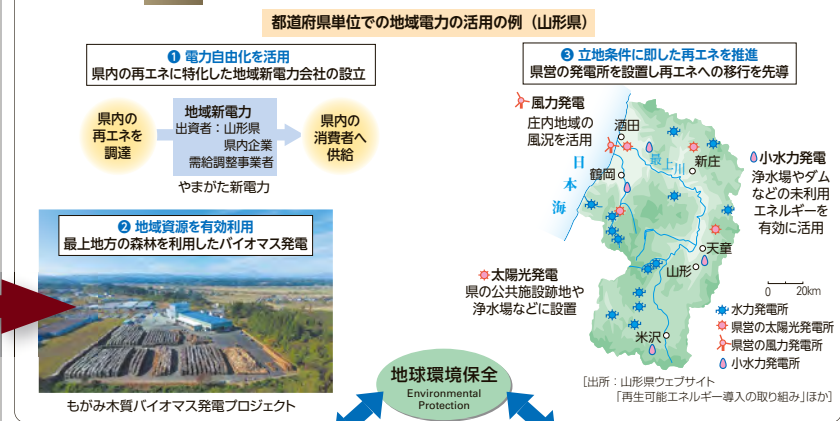
- 自然環境
- 資源と産業、人・モノ・金のつながり
- 人口、村落・都市
- 文化と国家
- 資源と産業

Step① 現状の把握と確認

系統地理的分野で学んできた内容を整理し、日本がかかえる課題について確認をします。五つのテーマについて分析し、探究活動の例としてエネルギーの安定供給を取り上げています。

分析と考察 地域で電力を自給し、非常時にも供給を絶やさないくみを考える

考察① 地域資源を活用したエネルギー生産体制を整備し、自立を進める

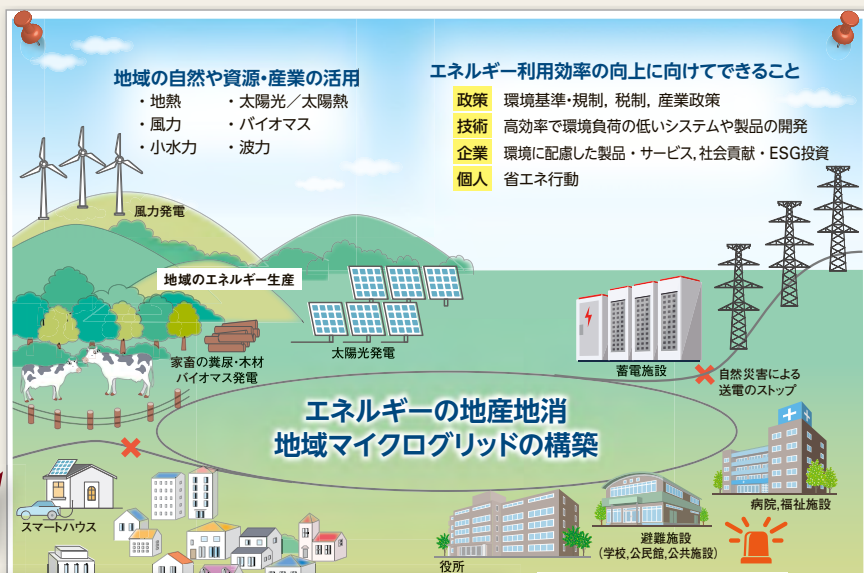


考察② 地区で蓄電や廃熱などの高度利用を進める



考察結果 地域の自然環境に応じた再生可能エネルギーの利用や、電力自由化を活用した地域電力会社の設立など、エネルギーの地産地消に向けた整備が始まっていることがわかった。さらに、地区単位ではエネルギーの高度利用も進められており、非常時には自治体や各家庭での発電や蓄電も有効と考えられる。

まとめと発表 エネルギー自立を可能とする地域社会の構築



Step④ まとめと発表

考察した結果をポスターやプレゼンテーションソフトを利用して、課題の解決に向けた提言をまとめます。まとめあげた成果物はクラスで発表し、意見や感想を受けて、さらに内容を磨き上げていくと探究活動も深まります。

Step③ 分析と考察

設定した仮説が実現可能かどうか、問題点はないか、ほかに解決方法はないかなど多面的・多角的に分析・考察をはかります。

小地形や新旧比較など、地形図の典型的なテーマを網羅。

地形図の読図 9テーマ

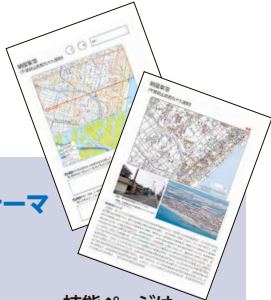
地形・防災

- ① 扇状地の地形を読む
  - ② 氾濫原の地形を読む
  - ③ 河岸段丘の地形を読む
  - ④ 海岸平野の地形を読む
  - ⑤ 陸繋島の地形を読む
  - ⑥ カルスト台地の地形を読む
- ハザードマップでリスクを知る

村落・都市

- ⑦ 地形図で読み解く村落の機能と形態
- ⑧ 新旧地形図で読み解く村落や都市の変化

技能ページは、作業用のシートを指導書で用意します。



地理の技能

地形図読図⑤ 陸繋島の地形を読む

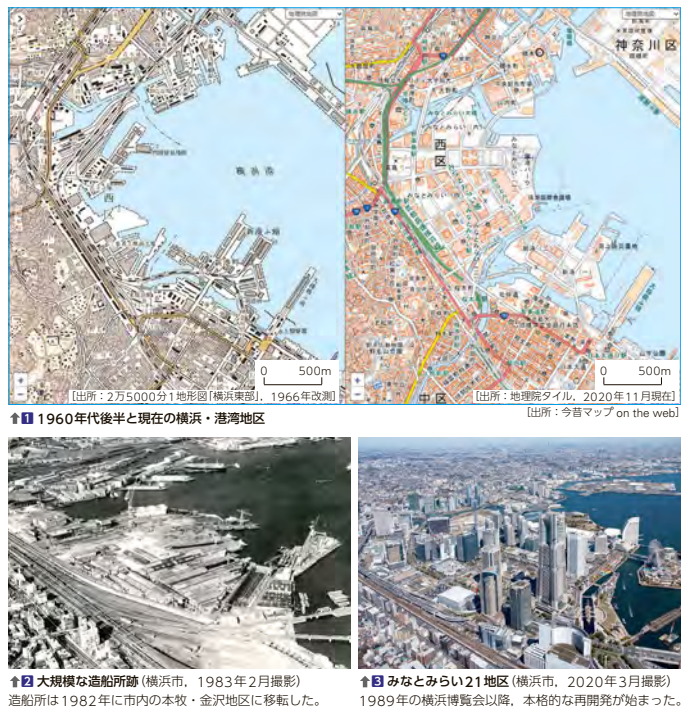
教 p.28



地理の技能

地形図読図⑧ 新旧地形図で読み解く村落や都市の変化

工業地区からオフィス・サービス地区への変化



教 p.160

雨温図・ハイサーグラフ、推移グラフ、散布図、三角グラフなど読み取りの技能を着実に習得できます。

主題図の読み解き 8テーマ

- グラフから世界の気候をつかむ
- 主題図と統計から読み解く小麦・米の流通形態
- 統計で読むエネルギー資源の推移
- 分布から読む工業の立地指向
- 三角グラフから産業構造の変化を読む
- 地図と統計で読む輸送機関の特徴
- 階級区分図と散布図から読み解く人口増加
- アフリカの地域区分を考える

エネルギー資源の産出や消費の上位国について、グラフの推移に着目して考察します。

地理の技能

景観写真の読み取り

地域の特徴を写し出す写真を景観写真という。景観写真を読み解くには、そこにあらわれている地理的な特徴に気づくことが大切である。次の3枚の写真から、地理的特徴を探してみよう。

写真A 写真B 写真C

写真撮影地点

TRY! 写真A~Cは世界地図中の地点a~cのどこで撮影されたものか、植生の景観や建物のようすから考えてみよう。(→p.172)。

3枚の写真には、それぞれ、地域の自然条件に適した生活の工夫がみられる。二次元コードを読み取り、地球儀ソフトを使って写真の場所を特定しよう。

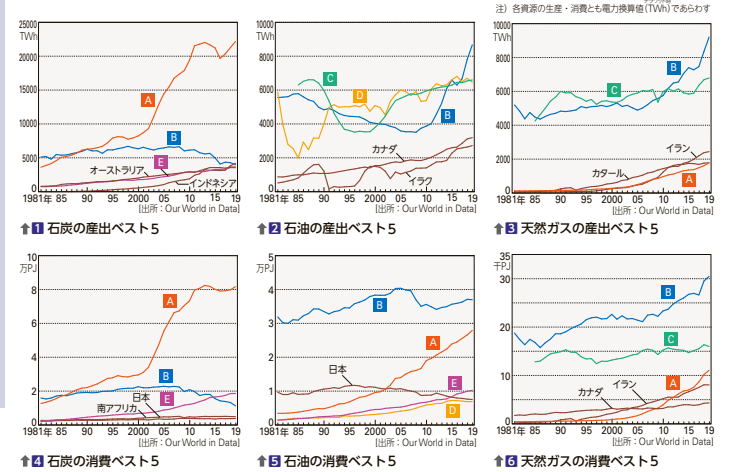
教 p.45

地理の技能

教 p.99

統計で読むエネルギー資源の推移

TRY! 図1~3は、1981年から現在まで40年間の石炭・石油・天然ガスの産出と消費の上位5位国(2019年)の推移をあらわしたものである。グラフ中のA国からE国の変化の特徴を読み取り、それぞれの国にあたるかを考えてみよう。



エネルギー資源の産出と消費の動向は、それぞれの国の経済力や、国家間の力関係を映し出す鏡である。特に21世紀に入って、B国とC国といわれる新興経済大国が大きな経済力を示していること、また、アメリカが西アジアへのエネルギー依存を回避する目的もあって力を注いだシェールオイル、シェールガス開発が軌道に乗ったことを、上をグラフは如実にあらわしている。

着眼点

- A国は、3資源ともに特に2000年代から消費が急増している。産出は石炭の増加がめざましい。
- B国も産出大国であるとともに消費大国であるが、2000年代から石油・天然ガスの産出が大幅に増加し、石炭は産出も消費も減少している。石炭から石油・天然ガスへとシフトし、エネルギー自給率も上がっていると考えられる。
- C国は、石油・天然ガスの産出がめだっている。1990年代に経済危機がおり、石油産出が大幅に減少した。消費では、天然ガスへの依存度が高いことが認められる。
- D国は、消費ではどの資源も5位以内には入っておらず、もっぱら石油の世界的な輸出国と判断できる。
- E国は、石炭の産出は増加しているが、石油・天然ガスはベスト5に入らない。A国と同様、石炭・石油消費の急増から、新興経済大国の一つと判断できる。

【解答はp.103へ】

写真の読み解き 4テーマ

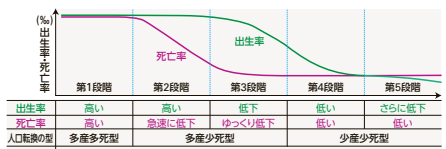
- 景観写真の読み取り
- 衣服から読む暮らしの地域性
- 食生活から読む暮らしの地域性
- 住居から読む暮らしの地域性



二次元コードから、GoogleEarthプロジェクトで写真の撮影地点を鳥瞰できます。

大学入試の求める思考力・判断力

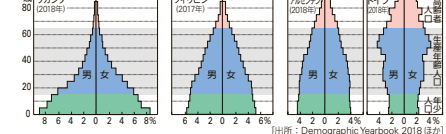
教 p.144 人口構成の理解のキーとなる人口ピラミッド



- ① 栄養状態、医療、衛生状態の改善による死亡率や乳幼児死亡率の低下
- ② 労働集約的な農業から工業への移行
- ③ 子供の養育にかかる費用の増大
- ④ 教育の普及、核家族化など出生を抑制する倫理的文化的障壁の低下
- ⑤ 避妊の知識や手段の普及

変化の激しい国際情勢を読み解く主題図やグラフを新設し、充実をはかりました。大学入試に向け思考力・判断力を養います。

人口ピラミッド



日本では高齢化が進んでいるが、世界ではどの年齢層の人口が多いのだろうか。各年齢層の割合はどのように変化してきたのか。また、今後はどのように変化するのだろうか。

2 人口構成と人口転換

人口構成と人口ピラミッドは人口ピラミッドがグラフ化したもの

人口(幼年人口)、15～64歳の生産年齢(老年人口)の三つに大きく区分し、その人口構成から社会の特性を読み取るべく、過去の人口現象や将来の人口構成

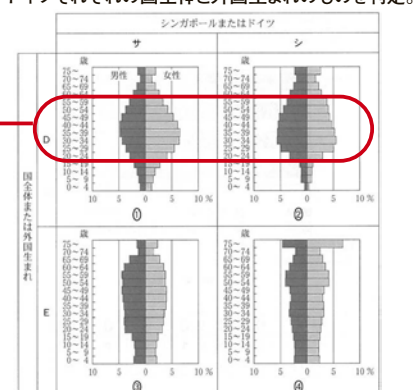
人口増加と人口転換 近代以前は、出生率と人口転換

人口ピラミッドは富士山型を示す(図1)水準が向上し、医療の普及や衛生環境が多産少死になった。人口は急速に増えるようになる(ピラミッド型)。その後に結婚や家族のあり方についての考え下して少産少死になった(図2)。その止人口が続くと、人口ピラミッドは釣りの自然増加の変化を人口転換または人口

教科書では、人口転換の段階とピラミッドの型との対応をおさえるとともに、生産年齢人口の極端な増減による星型やひょうたん型についても扱っています。

生産年齢人口の多さが特徴で、労働者が中心であることを判断できます。

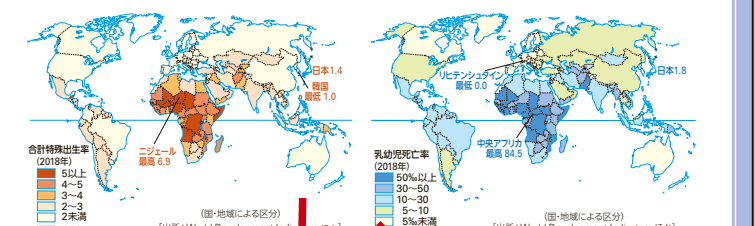
第3問 問5 四つの人口ピラミッドから、シンガポールとドイツそれぞれの国全体と外国生まれのものを判定。



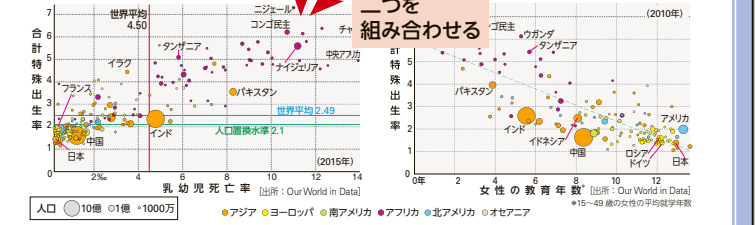
人口統計の指標間の関連を読み解く散布図

階級区分図と散布図から読む人口増加

1人の女性が一生の間に生む子供の数を合計特殊出生率という。合計特殊出生率が変化する要因について、階級区分図と散布図をみながら考えてみよう。



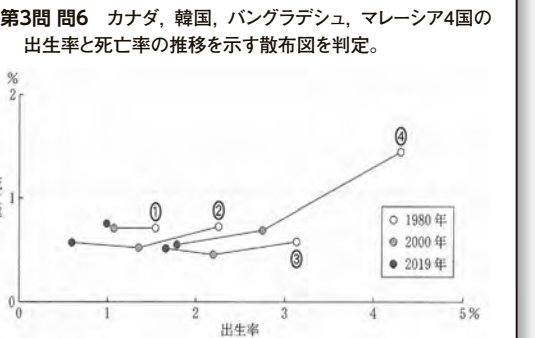
二つを組み合わせる



教科書では、階級区分図であらわした合計特殊出生率と乳幼児死亡率の統計を散布図にあらわし、分布の傾向とともに、経済発展の影響についても扱います。

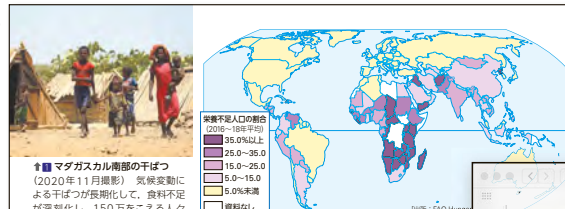
2022年 大学入学共通テスト「地理B」本試験出題

第3問 問6 カナダ、韓国、バングラデシュ、マレーシア4国の出生率と死亡率の推移を示す散布図を判定。



MANDARA対応の統計データ

教 p.88



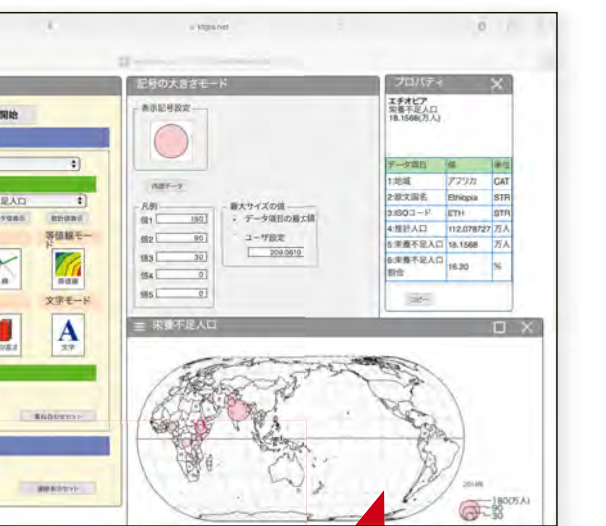
教 p.88 図2・図3 「栄養不足人口」の統計データは、フリーGISソフト「MANDARA」に対応した形式で収録しています。このデータをブラウザ版GIS「MANDARA JS」にドラッグするだけで、特別なソフトがなくてもGISを用いた主題図づくりが可能です。



栄養不足人口のダウンロード

MAP DUMMY	地域	国名	2019年	2019年	2019年
UNIT	CAT	STR	万人	万人	%
NOTE			2019年	2019年	2019年
MISSING					
バングラデシュ	アジア	Bangladesh	10,024,283	9,738,717	0.3615
アフガニスタン	アジア	Afghanistan	38,041,757	9,738,717	0.2560
アラブ首長国連邦	アジア	United Arab Emirates	9,770,526	9,738,717	0.1006
アルメニア	アジア	Armenia	2,957,728	2,957,728	13.2395
イラン	アジア	Iran, Islamic Rep.	82,913,893	82,913,893	14.7412
インド	アジア	India	1,366,417,756	1,366,417,756	4.5403
インドネシア	アジア	Indonesia	270,625,557	270,625,557	17.5907
ウズベキスタン	アジア	Uzbekistan	33,580,335	33,580,335	33.5803

フリーGISソフト「MANDARA」対応のExcelファイルをダウンロード



ブラウザ版GIS「MANDARA JS」に統計データをドラッグして主題図を作成

巻末付録「地図とGISの理解を深める」(p.308～314)

巻末付録「地図とGISの理解を深める」では、地理探究の学習にも必要な「地図とGIS」の基礎事項をまとめました。

- ① 地図の見方・考え方
- ② 地理院地図を活用しよう
- ③ WebGISにアクセスしよう
- ④ GISとGNSSのしくみ

実際に操作することで、GISのしくみや、地理空間情報の扱い方が理解できるWeb GISを厳選して紹介しています。

# 地理探究ワークブック

地探 703 準拠

B5判・114頁(予定)・1色刷 予価：693円(10%税込) 別冊解答付



20 第1編 現代世界の系統地理的考察

## ◆第1章 自然環境◆

教科書 p.46～49

### ③ 世界各地の自然と生活 (2)

1 赤道	2 熱帯の自然と生活
2 年較差	熱帯(A)の気候環境 (1) を中心に東南アジア、アフリカ、南アメリカに広く分布 1年を通じて高温で(2)が小さい
3 ラトソル	土壌に残された鉄分が酸化した肥沃度の低い赤色の(3)[オキシソル] 河口部の汽水域では(4)が発達し、水温が20～30度の浅瀬には(5)が広がる
4 マングローブ	熱帯低気圧が水温27℃以上の海域で発生→太平洋西部で(6)、インド洋や南太平洋で(7)、アメリカ大陸周辺で(8)とよばれる
5 サング礁	分布…赤道直下 高温多湿。さまざまな樹種が密に生育する(9)が広がる 局所的に(10)とよばれる突発的な豪雨を伴う豪雨が発生 農村では自給的な(11)農業、輸出向けの(12)開発
6 台風	弱い乾季のある熱帯雨林気候(Am) アジアでは季節風(モンスーン)の影響で多雨になるところもある 弱い乾季があり、植生は(13)林へと移行 アジアでは(14)の二期作や三期作
7 サイクロン	サバナ気候(Aw) 分布…Af周辺の南北回帰線内 冬に(15)帯の影響を受けて強い乾季あり 長草草原と疎林からなる(16)が広がり、パオバやアカシアなどの樹木が点在
8 ハリケーン	3 乾燥帯の自然と生活
9 熱帯雨林	乾燥帯(B)の気候環境 陸地面積の4分の1以上を占める 気温の(17)が大きい。水を得るため、サウジアラビアやアラブ首長国連邦では、 海水の(18)化)進んでいる。牛、馬、らくだ、羊、山羊など家畜を飼育しながら 住居を移動する(19)がみられる。
10 スコール	砂漠気候(BW)
11 焼畑	降水量より蒸発量が多く極度に乾燥。植物はほぼ育たない (20)沿いや地下水が湧くところには(21)があり居住地となる 降雨時のみ水流が見られる(22)[涸れ川]は古くからの交通路
12 プランテーション	分布…BS周辺。 夏に(23)帯の影響を受けて雨量の少ない雨季あり サハラ砂漠の南縁にあたる(24)では砂漠化が進行 モンゴル～中央アジア、アルゼンチンの(25)は、丈の短い草原の(26)が広がり、土壌は肥沃な(27)土 ウクライナ～カザフスタンにかけての(28)が広がる地域は小麦栽培が盛ん。アメリカの(29)では移動式スプリンクラーである(30)を使い小麦やとうもろこしを栽培
13 熱帯季節 林	ステップ気候(BS)
14 種	
15 亜熱帯高圧	
16 サバナ	
17 日較差	
18 淡水 化	
19 遊牧	
20 外来河川	
21 オアシス	
22 ワジ	
23 熱帯収束 帯	
24 サヘル	
25 乾燥/パンパ	
26 ステップ	
27 黒色 土	
28 チェルノゼム	
29 グレートプレーンズ	
30 センターピボット	

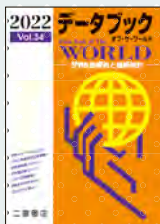
### ● 左頁：表形式の穴埋め

教科書本文を表にまとめ、穴埋め形式により、地理の重要用語を整理させ、基礎知識の定着をはかっています。解答欄を左側に設けたことにより、くり返し演習をすることが可能です。

### ● ふりがなを多く用いた、読みやすい紙面

教科書本文でふっているふりがなはワークブックにもつけています。難解な漢字があっても無理なく作業を行うことができます。

### 地理探究におすすめの副教材



データブック オブ・ザ・ワールド 2022年版 Vol.34

A5判・496頁 定価：本体770円(10%税込)

産業・貿易・経済・自然環境など、多くの分野を網羅した「統計要覧」と、全独立国の情報を網羅した「世界各国要覧」の二部構成になっており、地理探究での系統地理学習と地誌学習に対応しています。



地理統計要覧 2022年版 Vol.61

A5判・160頁 定価：本体440円(10%税込)

最新データをもとに整理・分類した統計書のロングセラーです。コンパクトな体裁ながら、多くの分野の莫大な情報を掲載しています。検索しやすい分野別構成になっており、変化の激しい世界を、統計で明らかにします。

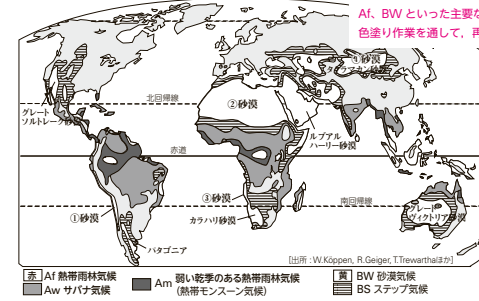
### 教科書に準拠し、全分野・全地域を扱ったワークブック

授業の整理はもちろん、大学入学共通テストの演習としても有効です

▼教科書p.46-49に対応した頁の例

③ 世界各地の自然と生活 21

教科書問題1教科書p.47図6、p.49図8をみて、熱帯雨林気候(Af)、砂漠気候(BW)の地域を着色しなさい。また①～④の砂漠名を答えなさい。



① アタカマ 砂漠 ② サハラ 砂漠 ③ ナミブ 砂漠 ④ ゴビ 砂漠

標準問題2下の世界の砂漠A～Gが形成されたのは、次の砂漠の成因1～4のどれに該当するだろうか。砂漠の位置(緯度や経度)や、山脈や海流との関係を参考にしながら、分類しなさい。

成因1 亜熱帯高圧帯の影響を受けている	A C
成因2 大陸内部にある	B F
成因3 卓越風に対して山脈の風下にある	E
成因4 沿岸を寒流が流れている	D G

【世界の砂漠】

A サハラ砂漠 B タクラマカン砂漠 C グレートソルトレイク砂漠 D アタカマ砂漠  
E パタゴニア F ゴビ砂漠 G ナミブ砂漠

発展問題3次の図1は、熱帯の汽水域に生息する樹木の生息域の変化を、世界の地域別にあらわしている。特に東南アジアでは、海岸沿いに写真2のようなえびの養殖池の開発が進み、生息面積の減少が著しい。この樹木の総称名を必ず入れ、開発が進むことによる環境問題について記述しなさい。

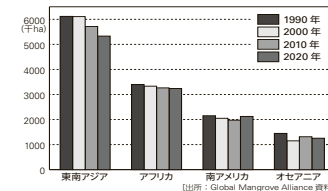


図1 汽水域に生息する樹木の生息面積の変化



写真2 海岸線に広がるえびの養殖池(ベトナム)

例・熱帯の汽水域に生息するマングローブには多くの生物が生息しており、開発により生態系が崩れる。  
・マングローブが潮間帯にあることで、台風の波浪や高潮、津波から住民を守ってきた防災機能を損なう。

※紙面の解答・朱書き解説は、本体には含まれていません。

● 右頁：作業と演習問題を配置  
問いは内容・レベルに応じて「基本」「標準」「発展」と分類しています。

教科書掲載の基本的知識を穴埋めや作業で確認します。

標準…学習した知識にもとづき、思考力、判断力を養います。

発展…教科書に掲載していない事項について資料を読み解き、考察させます。

観点別評価を行う際に役立てることができません。

### ● バリエティ豊かな演習問題

教科書に掲載していない写真や最新統計、模式図などを豊富に取り上げています。

### ● ミニ論述にもチャレンジ

学んだ知識を活用し、自ら文章にまとめ、表現力を養うミニ論述問題も用意しています。

### ● 解答・朱書き解説をPDFで完備

ワークブックのご採用校向けに、解答・解説入りのPDFデータをご用意します。



白地図ワーク

B5判・496頁 定価：本体462円(10%税込)

「地理の見方・考え方」を養うことができるテーマや設問を豊富に取り入れた白地図作業帳です。授業の補完だけでなく、大学入学共通テスト対策にも活用できる作業形式を取り入れました。



大学入学共通テストへの道 地理

B5判・160頁(別冊解答8頁付) 定価：本体1,430円(10%税込)

過去10年以上のセンター試験問題の良問を選出して再構成。問題ごとの詳細な解説で対策を図ります。試行調査や2021年度共通テストも収録。(二宮書店編集協力・山川出版社発行)





# 教師用指導書付録 コンテンツ DVD-ROM 内容紹介

## 教科書紙面PDF



高解像度の教科書紙面PDFを収録。



PDF画像を拡大すると、  
写真の細部まで  
詳細に表示できます。

## 授業用スライド



1時間の授業の流れをPowerPoint形式で収録。

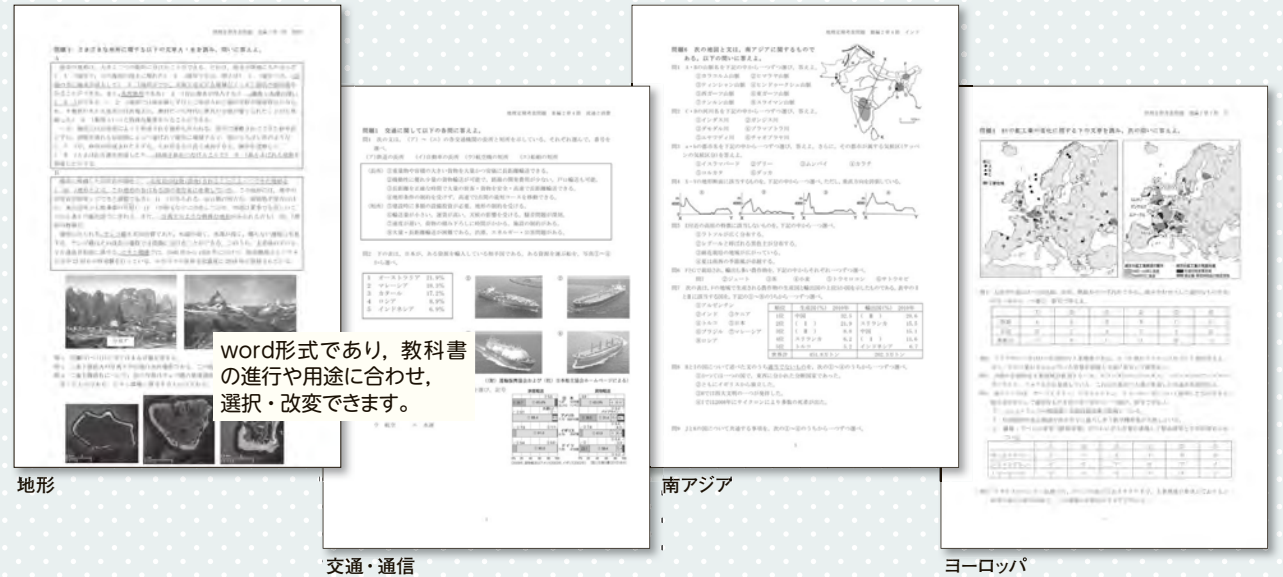


p.64-65  
「環境問題に関する大観」

## 定期考査問題例



教科書に準じた問題や、共通テストや私大入試などを取り入れた発展的な問題などを収録。  
主題図や統計の読み取りなど、大学入試の演習としても有効です。



word形式であり、教科書の  
進行や用途に合わせ、  
選択・変更できます。

## 読図ワークシート



教科書中の地形図や主題図の読図や作業などを  
配布用プリントの形式で収録。

## 地理探究 一問一答

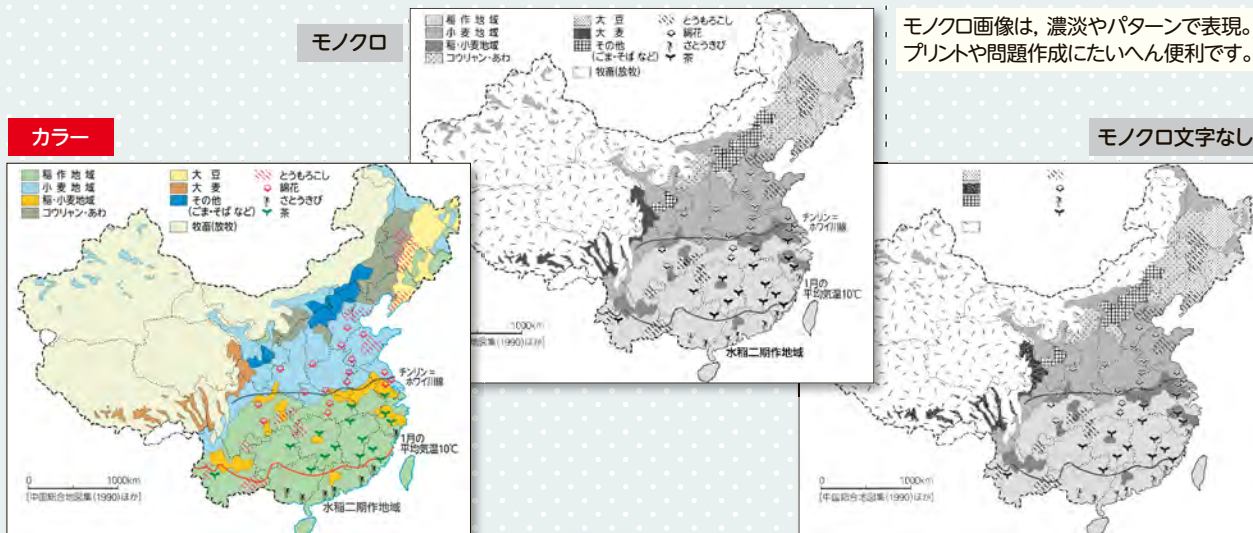


教科書中の重要な用語について、一問一答形式の  
設問を収録。授業の復習や入試の演習に有効です。

## 教科書図版集



教科書掲載の全ての図版について、カラー・モノクロ・モノクロ文字なし画像を用意。



モノクロ画像は、濃淡やパターンで表現。  
プリントや問題作成にたいへん便利です。

モノクロ文字なし



p.27  
海岸平野の地形を  
読む地形

地理院地図などを使った  
発展的な問題、解答例、  
解説資料などを掲載します。

# 年間指導計画 作成資料

弊社ウェブサイトと同内容のExcelファイルを用意しています。  
ダウンロードしてご利用ください。

学習の到達目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
使用教材	教科書：「地理探究」[詳解現代地図 最新版] 副教材：「地理探究ワークブック」「データブック オブ・ザ・ワールド」

※ 年間授業時数を35週(35×3)、全105時と設定しました。2学期/3学期制を考慮して、それぞれの指導計画を提示しています。

章	節	項	学習内容とねらい	配当時			
				時数	月	2学期 3学期	
第1章 自然環境	23	①地形	1 世界の地形と地形をつくる力 2 プレートの運動が地形におよぼす影響 3 地震と火山 / 4 造山運動と世界の陸地 5 河川がつくりだす地形 / 6 海岸にみられる地形 7 さまざまな環境で形成される地形	6	4月	1学期中間 前期中間	
		②気候と生態系	1 水の循環と利用 / 2 海洋の循環 3 大気の大循環と気候 / 4 気候の地域性 / 5 植生と土壌 <b>(新しい視点)</b> 自然環境と生態系	5			
		③世界各地の自然と生活	1 世界の気候区分 / 2 熱帯の自然と生活 3 乾燥帯の自然と生活 / 4 温帯の自然と生活 5 亜寒帯と寒帯の自然と生活 <b>(新しい視点)</b> 高山地域の自然と生活	5	5月		
		④日本の自然環境と防災	1 日本の地形 2 日本の気候 3 日本の自然災害と防災	3			
		⑤地球環境問題	1 環境問題に関する大観 / 2 越境する汚染 3 地球温暖化の現状 / 4 地球温暖化への対策 <b>(新しい視点)</b> 環境問題への国際協力とシチズン・サイエンス	4			
第1編 現代世界の系統地理的考察	第2章 資源と産業	17	①農林水産業	1 農業の諸条件 / 2 社会の発展と農業の変化 <b>(新しい視点)</b> 都市とその周辺で営まれる農業 3 グローバル化・技術革新と農業 / 4 林業 / 5 水産業 6 食料問題 <b>(日本を知る)</b> 日本の農林水産業とその課題	6	6月	1学期期末 前期期末
			②資源・エネルギー	1 社会の発展と資源の利用 / 2 世界の鉱産資源 3 世界のエネルギー資源とその課題 4 電力の利用と変化 <b>(日本を知る)</b> 日本の資源・エネルギー問題	4		
			③工業	1 社会の発展と世界の工業化 / 2 工業の立地 3 工業地域の形成と変化 4 自動車工業の特徴と日本の海外生産 5 国際分業の進展と多国籍企業 6 工業生産のグローバル化に伴う諸課題 <b>(新しい視点)</b> 知識集約型産業の発展 <b>(日本を知る)</b> 日本の工業 変化と課題	6	7月	
			④第3次産業	1 サービス経済化と社会の変化	1		
第3章 人・モノ・金のつながり	7	①交通・通信	1 世界を結ぶ交通 2 世界を結ぶ通信 <b>(新しい視点)</b> 交通・通信の発達と買い物行動の変化 <b>(日本を知る)</b> 日本の暮らしを支える交通とその課題	3		2学期中間	
		②貿易・観光	1 世界を結ぶ貿易 2 世界と日本の貿易とその課題 3 世界を結ぶ資金の流れ 4 世界を結ぶ観光とその課題 <b>(日本を知る)</b> 日本の観光とその課題	4	9月		
第4章 人口・村落・都市	9	①人口	1 人口の推移と分布 / 2 人口構成と人口転換 3 人口移動 / 4 人口増加地域、減少地域の人口問題 <b>(日本を知る)</b> 日本の人口問題	5		2学期中間	
		②村落・都市	1 集落の成り立ちと機能 / 2 都市の成り立ちと機能 <b>(新しい視点)</b> 都市の拡大と都市システム 3 世界の都市・居住問題と解決への努力 <b>(日本を知る)</b> 日本の都市・居住問題と解決への努力	4	10月		

編	節	項	学習内容とねらい	配当時			
				時数	月	2学期 3学期	
第1編 系統地理的考察	5	①生活文化と言語・宗教	1 生活文化と地域 2 世界の衣服 / 3 世界の食生活 4 世界の住居 5 世界の言語 / 6 世界の宗教	4	10月	2学期期末	
			②国家とその領域	1 国家の形成と領域 2 世界の民族・領土問題 3 日本の領土に関する問題 4 海洋国家としての日本 <b>(新しい視点)</b> 北極圏と南極圏 5 国際連合の役割と課題	4		
第II編 現代世界の地誌的考察	第2章 現代世界の諸地域	35	第1章 地域区分	1 地域区分の目的と方法 2 さまざまな地域区分 3 本書でとりあげる地域と考察方法	2		後期中間 3学期期末(学年末)
			①中国	1 経済の改革開放による変化 2 経済発展を支える人口 3 経済発展を支える農業の地域性 4 経済・産業の発展と現代の生活 5 経済成長と国内外の課題	4	11月	
			②朝鮮半島	1 東アジアのなかの朝鮮半島 2 朝鮮半島の文化と経済発展 3 韓国の課題と国際関係	2		
			海洋① 環日本海	日本を含む環日本海諸国との関係について探究させる。			
			③東南アジア	1 東南アジアの成り立ちと多様な民族文化 2 自然環境と農業・食文化 3 工業化による発展と生活文化への影響 4 地域内外の経済関係と文化のつながり	3		
			④南アジア	1 自然環境と人口 2 住民と文化 3 農業と農村 4 産業の発展とグローバル化	3	12月	
			⑤西アジア・中央アジア	1 多様な自然環境 2 民族と文化 3 資源開発の進展と生活の変化 4 地域紛争と国際関係	3		
			⑥北アフリカ・サブサハラアフリカ	1 自然環境と農業 2 歴史と文化 3 産業と経済発展 4 地域紛争と国際関係	3		
			海洋② 環インド洋	環インド洋地域の変化や世界各地への影響、日本が貢献できることを探究させる。			
			⑦ヨーロッパ	1 統合するヨーロッパ 2 統合の背景としての文化の多様性 3 自然と農業の地域性と共通農業政策 4 エネルギー・工業と貿易・交通の変化 5 ヨーロッパの変化と課題	5	1月	
⑧ロシア	1 自然環境と民族・文化 2 体制転換と産業の変化 3 ロシアと世界の結びつき	2					
⑨アングロアメリカ	1 自然環境の多様性と自然災害の特徴 2 社会の多様性と多文化社会 3 世界をリードする農業と産業 4 世界と結びつくアメリカ	4					
⑩ラテンアメリカ	1 多様な自然環境と農業 2 混ざりあう民族、拡大する都市 3 鉱工業の移り変わり 4 地域内外との政治的・経済的關係	3					
海洋③ 環大西洋	地域開発と経済発展について環大西洋地域の結びつきについて探究させる。						
⑪オーストラリア	1 自然と農牧業・鉱工業 2 多文化主義の社会と大都市の発達 3 世界との結びつき	2	2月				
⑫ニュージーランドと島嶼国	1 オセアニアのなかのニュージーランド	1					
海洋④ 環太平洋	日本をはじめ環太平洋地域との結びつきについて探究させる。						
第III編 現代世界における 日本の国土像			1 2050年の日本の姿 2 テーマ① 自然災害に強い国土をめざすには テーマ② 産業の変化と持続可能な成長 テーマ③ 人口減少社会を活性化するためには テーマ④ 多文化共生社会の実現をめざして 3 国土像の探究 ～エネルギーの安定供給をめざして	4	3月		

# 評価規準

弊社ウェブサイトと同内容のExcelファイルを用意しています。  
ダウンロードしてご利用ください。

編 章 節	時 数	評価の規準			評価方法	
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
第1編 現代世界の系統地理的考察	第1章 自然環境	① 地形 6	●地形に関わる諸事象の規則性、傾向性や、人間による利用などについて理解することができる。 ●地図やGISなどを用いて、地形の形成に関する様々な情報を適切に読み取り、まとめることができる。	●地形の分布や成因などに注目して、「平野の地形」などの主題を基に、「平野の地形はどのように利用されてきたのだろうか」などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。	●地形とその利用について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	<b>知識・技能</b> ・地形図の読み取りやハイサーグラフを作成するワークシート ・教科書の内容を確認する定期考査の問題
		② 生態系と気候 5	●気候と生態系に関わる諸事象の規則性、傾向性や、気候の地域性などについて理解することができる。 ●地図やGISなどを用いて、ハイサーグラフなど気候と生態系に関する情報を適切に作成することができる。	●大気大循環のしくみや影響などに注目して、「気候の地域性」などの主題を基に、「地域による気候の違いにはどのような背景があるのだろうか」などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。	●気候の変化と生態系の維持について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	<b>思考・判断・表現</b> ・地域の望ましい防災のあり方を判断し、適切に表現するワークシート ・教科書の内容をもとに自らの考えをまとめる定期考査の問題
		③ 世界各地の自然と生活 5	●世界各地の自然と生活に関わる諸事象の規則性、傾向性や、気候区分の方法などについて理解することができる。 ●統計やGISなどを用いて、気候に関するグラフを適切かつ効果的に読み取り、まとめることができる。	●気候の特徴と人々の暮らしとの関係性に注目して、「各気候帯での人々の暮らし」などの主題を基に、「厳しい自然環境の中で人々はどうのように工夫して暮らしているのだろうか」などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。	●世界各地の自然と生活について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	<b>主体的態度</b> ・本単元で学んだことを実生活に適切に見えるかを見取る定期考査問題 ・これからの学習に意欲的に取り組もうとしているかを見取るワークシート
	④ 日本 の自然環境・防災 3	●日本の自然環境に関わる諸事象の規則性、傾向性や、自然災害などについて理解することができる。 ●地図やGISなどを用いて、防災に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができる。	●日本の自然環境と自然災害の関係などに注目して、「自然災害と防災」などの主題を基に、「自然災害にどのように対処すればよいだろうか」などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。	●日本の自然環境と防災について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。		
	⑤ 地球環境問題 4	●地球環境問題に関わる諸事象の規則性、傾向性や、持続可能な開発のあり方などについて理解することができる。 ●地図やGISなどを用いて、地球環境問題に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができる。	●気候や環境の変化などに注目して、「気候変動の影響」などの主題を基に、「地球温暖化は生態系や人間生活にどのような影響を与えているのだろうか」などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。	●地球環境問題について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。		
第2編 現代世界の系統地理的考察	第2章 資源と産業	① 農林水産業 6	●農林水産業に関わる諸事象の規則性、傾向性や、食料問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解することができる。 ●地図や統計などを用いて、農林水産業に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができる。	●農林水産業の条件や変化などに注目して、「食料問題」などの主題を基に、「世界の栄養不足人口の分布に地域的な偏りがあるのはなぜだろうか」などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。	●農林水産業の変化について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	<b>知識・技能</b> ・産業に関わる統計の読み取りや主題図を作成するワークシート ・教科書の内容を確認する定期考査問題
		② エネルギー 4	●資源・エネルギーに関わる諸事象の規則性、傾向性や、資源・エネルギー問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解することができる。 ●地図や統計などを用いて、資源・エネルギーに関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができる。	●資源産地の分布や消費地との結びつきなどに注目して、「エネルギー資源の課題」などの主題を基に、「資源の産出と消費にはどのような地域的な特徴と地域的結びつきがみられるか」などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。	●資源・エネルギーの生産と消費について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	<b>思考・判断・表現</b> ・産業の発展に伴う問題の望ましい解決策を判断し、適切に図示するワークシート ・教科書の内容をもとに自らの考えをまとめる定期考査問題
		③ 工業 6	●工業に関わる諸事象の規則性、傾向性や、工業生産のグローバル化に伴う諸課題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解することができる。 ●地図や統計などを用いて、工業に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができる。	●工業立地や変化などに注目して、「工業生産のグローバル化」などの主題を基に、「知識集約型産業は今後どのように展開していくのだろうか」などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。	●工業の発展について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	<b>主体的態度</b> ・本単元で学んだことを実生活に適切に見えるかを見取る定期考査問題 ・これからの学習に意欲的に取り組もうとしているかを見取るワークシート
		④ 第3次産業 1	●第3次産業に関わる諸事象の規則性、傾向性や、サービス経済化の現状や要因、問題の解決に向けた取組などについて理解することができる。 ●地図や統計などを用いて、第3次産業に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができる。	●産業構造の変化に注目して、「サービス経済化」などの主題を基に、「サービス産業の需要の拡大と発展は社会にどのような影響をもたらすのだろうか」などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。	●産業構造の変化について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	
第3章 人・モノ・金のつながり	① 交通・通信 3	●交通・通信に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、交通・通信に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解することができる。 ●地図やGISなどを用いて、交通・通信に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができる。	●交通・通信手段の発達や利用に関わる課題などに注目して、「交通と通信の課題」などの主題を基に、「通信手段の発達はどのような生活の変化や課題を生じさせているのだろうか」などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。	●交通と通信の発達について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	<b>知識・技能</b> ・貿易に関わる統計の読み取りや主題図を作成するワークシート ・教科書の内容を確認する定期考査問題	
	② 貿易・観光 4	●運輸、観光に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、貿易・観光に関わる問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解することができる。 ●地図やGISなどを用いて、貿易・観光に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができる。	●貿易の構造や人・物・資金の流れなどに注目して、「経済連携」や「観光の多様化」などの主題を基に、「地域的な経済連携は、なぜどのように進められてきたのか」や「観光は経済や観光にどのような影響を与えているのか」などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。	●経済連携の進展や観光の多様化について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	<b>思考・判断・表現</b> ・貿易の進展に伴う問題の望ましい解決策を判断し、適切に図示するワークシート ・教科書の内容をもとに自らの考えをまとめる定期考査問題	
第4章 人口・村落・都市	① 人口 5	●人口に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、人口問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解することができる。 ●地図や統計などを用いて、人口に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができる。	●人口の推移、分布、移動などに注目して、「少子高齢化」などの主題を基に、「世界の人口分布や各国の年齢別人口割合は今後どのように変化するのだろうか」などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。	●世界及び日本の人口問題について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	<b>知識・技能</b> ・人口に関わる主題図の読み取りや村落の新旧地形図を作成するワークシート ・教科書の内容を確認する定期考査問題	
	② 村落・都市 4	●村落・都市に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、居住・都市問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解することができる。 ●地図やGISなどを用いて、村落・都市に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができる。	●集落の機能や形態などに注目して、「世界の居住問題」などの主題を基に、「世界の居住問題の背景には何があるのだろうか」などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。	●世界の都市問題について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	<b>思考・判断・表現</b> ・人口問題や都市問題の望ましい解決策を判断し、適切に表現するワークシート ・教科書の内容をもとに自らの考えをまとめる定期考査問題	

編 章 節	時 数	評価の規準			評価方法		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度			
第1編 現代世界の系統地理的考察	第1章 地域区分	① 生活文化と宗教 4	●生活文化と言語・宗教に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、民族問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解することができる。 ●地図やGISなどを用いて、生活文化と言語・宗教に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができる。	●世界の衣食住や言語・宗教の地域性などに着目して、「生活文化の多様性」などの主題を基に、「世界各地で文化が異なるのはなぜだろうか」などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。	●生活文化と言語・宗教について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	<b>知識・技能</b> ・景観写真の読み取りや民族紛争に関する主題図を作成するワークシート ・教科書の内容を確認する定期考査問題	
			② 国家とその領域 4	●国家とその領域に関わる諸事象の空間的な規則性、傾向性や、領土問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解することができる。 ●地図やGISなどを用いて、国家とその領域に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることができる。	●国家の特徴や国家の結びつきなどに着目して、「世界の民族・領土問題」などの主題を基に、「民族紛争や領土問題の背景には何があるのだろうか」などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。	●民族・領土問題について、よりよい社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。	<b>思考・判断・表現</b> ・作成了した世界の地域区分図の考察
		③ 東アジア 3	●東アジアの歴史的背景や経済、鉱工業、人口、民族、自然、農牧業について、経済成長と関連づけながら考察することができる。	●東アジアの歴史的背景や経済、鉱工業、人口、民族、自然、農牧業について、経済成長と関連づけながら考察することができる。	●東アジアの自然、産業、経済成長にともなう国際連携について、日本との関係を踏まえて考察することができる。	<b>主体的態度</b> ・本単元で学んだことを実生活に適切に見えるかを見取る定期考査問題 ・これからの学習に意欲的に取り組もうとしているかを見取るワークシート	
			④ 南アジア 3	●南アジアの歴史的背景や文化・民族、自然、人口、産業、経済連携について、世界各国との関係と関連づけながら考察することができる。	●南アジアの歴史的背景や文化・民族、自然、人口、産業、経済連携について、世界各国との関係と関連づけながら考察することができる。	●南アジアの自然、産業、経済成長にともなう国際連携について、日本との関係を踏まえて考察することができる。	<b>知識・技能</b> ・世界の諸地域にみられる地域の特徴や地域の課題を整理するワークシート ・教科書の内容を確認する定期考査の問題
		第2章 現代世界の諸地域	① 中国 4	●中国の歴史的背景や経済、鉱工業、人口、民族、自然、農牧業について、経済成長と関連づけながら考察することができる。	●中国の歴史的背景や経済、鉱工業、人口、民族、自然、農牧業について、経済成長と関連づけながら考察することができる。	●中国の経済成長に着目し、様々な分野における日本をはじめ世界への影響力について関心を高め、それを意欲的に追究しようとしている。	<b>知識・技能</b> ・世界の諸地域にみられる地域の特徴や地域の課題を整理するワークシート ・教科書の内容を確認する定期考査の問題
				② 朝鮮半島 2	●韓国の歴史的背景や、自然や文化、産業、地域間連携について、多様な文化と関連づけながらその特色や課題を理解し、知識として身につけることができる。	●韓国の歴史的背景や、自然や文化、産業、地域間連携について、多様な文化と関連づけながらその特色や課題を理解し、知識として身につけることができる。	●隣国である韓国の歴史的背景、自然や文化について、日本との関係を踏まえて関心を高め、それを意欲的に追究している。
	③ 東南アジア 3		●東南アジアの歴史的背景や民族、自然、産業、地域間連携について、多様な文化と関連づけながらその特色や課題を理解し、知識として身につけることができる。	●東南アジアの歴史的背景や民族、自然、産業、地域間連携について、多様な文化と関連づけながらその特色や課題を理解し、知識として身につけることができる。	●東南アジアの自然、資源、産業について、日本との関係を踏まえて関心を高め、それを意欲的に追究しようとしている。	<b>主体的態度</b> ・本単元で学んだことを実生活に適切に見えるかを見取る定期考査問題 ・これからの学習に意欲的に取り組もうとしているかを見取るワークシート	
			④ 西アジア 3	●西アジア・中央アジアの歴史的背景や文化、民族問題、自然、農牧業、資源について、二つの地域を比較しながらその特色や課題を理解し、知識として身につけることができる。	●西アジア・中央アジアの歴史的背景や文化、民族問題、自然、農牧業、資源について、二つの地域を比較しながらその特色や課題を理解し、知識として身につけることができる。	●西アジア・中央アジアの自然、資源・産業、文化・生活について、二つの地域を比較しながら関心を高め、その類似点や差異を意欲的に追究しようとしている。	
	⑤ 北アフリカ 3		●北アフリカ・サブサハラアフリカの歴史的背景や民族、自然、産業、経済構造について、二つの地域を比較しながらその特色や課題を理解し、知識として身につけることができる。	●北アフリカ・サブサハラアフリカの歴史的背景や民族、自然、産業、経済構造について、二つの地域を比較しながらその特色や課題を理解し、知識として身につけることができる。	●北アフリカ・サブサハラアフリカの自然や民族・文化について、二つの地域を比較しながら関心を高め、その類似点や差異を意欲的に追究しようとしている。		
			⑥ ヨーロッパ 5	●ヨーロッパの歴史的背景や民族、自然、農牧業、鉱工業、貿易と交通、地域連携について、世界各国との関係と関連づけながら考察することができる。	●ヨーロッパの歴史的背景や民族、自然、農牧業、鉱工業、貿易と交通、地域連携について、世界各国との関係と関連づけながら考察することができる。	●ヨーロッパの自然、農牧業、鉱工業、民族について、日本との関係を踏まえて関心を高め、それを意欲的に追究しようとしている。	
	第3編 現代世界における	第III編 現代世界における	⑦ ロシア 2	●ロシアの歴史的背景や民族、自然、産業の文化、自然、産業、都市・居住問題、世界との結びつきについて、その特色や課題を理解し、知識として身につけることができる。	●ロシアの歴史的背景や民族、自然、産業の文化、自然、産業、都市・居住問題、世界との結びつきについて、その特色や課題を理解し、知識として身につけることができる。	●ロシアについて、歴史的背景に着目し、産業・生活の変化、世界との結びつきに関して、隣国日本との関係と関連づけながら関心を高め、それを意欲的に追究しようとしている。	
			⑧ アングロアメリカ 4	●アングロアメリカの歴史的背景や民族・文化、自然、産業、都市・居住問題、世界との結びつきについて、その特色や課題を理解し、知識として身につけることができる。	●アングロアメリカの歴史的背景や民族・文化、自然、産業、都市・居住問題、世界との結びつきについて、その特色や課題を理解し、知識として身につけることができる。	●アングロアメリカの自然、産業、民族・文化について、日本との関係を踏まえて関心を高め、それを意欲的に追究しようとしている。	<b>知識・技能</b> ・課題の解決に向けて、これまで学んできたことの整理
⑨ ラテンアメリカ 3			●ラテンアメリカの歴史的背景や民族、自然、産業、貿易、社会問題について、日本や環大洋地域との関係と関連づけながら考察することができる。	●ラテンアメリカの歴史的背景や民族、自然、産業、貿易、社会問題について、日本や環大洋地域との関係と関連づけながら考察することができる。	●ラテンアメリカについて、歴史的背景や民族・文化、自然、産業、貿易、社会問題について、環大洋地域との関係を踏まえて関心を高め、それを意欲的に追究しようとしている。	<b>思考・判断・表現</b> ・探究した内容について適切に文章化、表・グラフ化すること、発表内容・方法、質疑応答	
⑩ オーストラリア 2			●オーストラリアの歴史的背景や民族、自然、産業、世界との結びつきについて、その特色や課題を理解し、知識として身につけることができる。	●オーストラリアの歴史的背景や民族、自然、産業、世界との結びつきについて、その特色や課題を理解し、知識として身につけることができる。	●オーストラリアについて、自然、産業、貿易について、日本をはじめ世界各国との関係を踏まえて関心を高め、それを意欲的に追究しようとしている。	<b>主体的態度</b> ・授業での取り組みや発言等の学習状況	
⑪ ニュージーランドと島嶼国 1			●ニュージーランドと島嶼国の歴史的背景や民族・文化、自然、農業について、世界各国との関係と関連づけながら考察することができる。	●ニュージーランドと島嶼国の歴史的背景や民族・文化、自然、農業について、世界各国との関係と関連づけながら考察することができる。	●ニュージーランドや島嶼国について、歴史的背景や民族・文化、自然、農業について、日本をはじめ環太平洋諸国との関係を踏まえて関心を高め、それを意欲的に追究しようとしている。		
⑫ これからの日本の国土像 4			●自然災害や産業の変化、人口減少、多文化共生社会への対応など、日本の国土や社会・経済の特色について、これまでの地図・系統図、個人や国、国際社会などからの多角的に客観的な視点をもとに考察し、その過程や結果について適切に表現することができる。	●自然災害や産業の変化、人口減少、多文化共生社会への対応など、日本の国土や社会・経済の特色について、これまでの地図・系統図、個人や国、国際社会などからの多角的に客観的な視点をもとに考察し、その過程や結果について適切に表現することができる。	●自然災害や産業の変化、人口減少、多文化共生社会への対応など、日本の国土や社会・経済の特色や諸課題について関心を高め、その解決の方向性や将来の国土のあり方について意欲的に追究しようとしている。●「エネルギーの安定供給をめざして」の事例において、日本がかかえる地理的な諸課題に対して、日本がかかえる地理的な諸課題の形成要因について考察し、その過程や結果、今後の改善策について適切に表現することができる。●あるべき国土像や地域づくりについて考察し、自分なりの国土像・地域像や国際関係を見出し、その過程や結果について適切に表現することができる。	<b>知識・技能</b> ・課題の解決に向けて、これまで学んできたことの整理 <b>思考・判断・表現</b> ・探究した内容について適切に文章化、表・グラフ化すること、発表内容・方法、質疑応答 <b>主体的態度</b> ・授業での取り組みや発言等の学習状況	



	観 点	内 容 の 特 徴
選 択 内 容 の 程 度	学習指導要領の教科の目標に沿った内容編成 「地理総合」の学習の成果を生かした内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>高等学校の地理教育で扱うべき内容がわかりやすく解説され、現代世界の特徴や課題、新しい動向が具体的な事例とともに示されているため、生徒が自ら読んで理解できる教科書になっている。</li> <li>「地理総合」で学習した成果を生かし、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べたうえで、自ら考察し、判断、表現する力を身につけることができる。</li> <li>よりよい社会を実現するために、日本が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土のあり方などについて、教科書を通して、構想する態度を養うことができるよう、工夫されている。</li> </ul>
組 織 ・ 配 列 ・ 分 量	内容の構成・配列の適正 学習意欲を高める構成	<ul style="list-style-type: none"> <li>各項目とも、「イントロ」「本文」「まとめと探究」という統一した流れで、見開きごとに完結する構成になっている。</li> <li>「イントロ」では各項で学ぶことについて着眼点を示し、「まとめと探究」では各項で学んだことの確認や発展的な問いを設定し、生徒自らが考える探究学習を促している。</li> <li>特設ページやコラムを随所に設け、世界の新しい動向を取り上げている。現代社会の現状や課題について考察したり、課題の解決策を構想する力を養うことができる。</li> <li>学習指導要領の項目に沿って、標準的な授業時数で完結するように構成されており、過不足なく、基礎から段階的に知識・技能を習得することができるよう、配慮されている。</li> </ul>
工 指 表 夫 導 記 や に 配 対 考 慮 する 現 及 び	用語や解説の取り上げ方 図や写真の取り上げ方 指導資料やデジタル教材の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料性が高く、情報量の多い図表・写真が本文と有機的に結びついており、地域や項目を理解するうえで必要な知識をしっかりと習得することができる。</li> <li>平易な表現で本文を記載するとともに、重要用語を太字で示し、関連箇所への参照ページを明記している。用語も精選されており、必要に応じて用語解説を欄外に記載するなどの工夫がなされている。</li> <li>二次元コードで動画や資料、関連ウェブサイトへのリンクを掲載することで、生徒の自学自習に対応している。</li> <li>生徒用のデジタル教科書や準拠ワークブック、教師用の指導書やICTライブラリなど、周辺教材が整備されており、教科書との組み合わせでより効果的に指導することができる。</li> </ul>
配 造 印 慮 本 刷 上 の	ユニバーサルデザインの配慮 環境への配慮と印刷の鮮明さ	<ul style="list-style-type: none"> <li>カラーユニバーサルデザイン（CUD）に配慮した色づかいであり、可読性の高いUDフォントを使用しているため、多くの生徒にとって読みやすい紙面になっている。</li> <li>植物油インクや再生紙を使用しており、地球環境や限りある資源に配慮し、SDGs（持続可能な開発目標）に貢献している。</li> </ul>
総 合 所 見		<ul style="list-style-type: none"> <li>系統地理、地誌とともに事例が充実しており、世界を多角的・多面的に考察することができる。</li> <li>資料性の高い図表・写真やコラムを活用することにより、本文の流れにそって地理的技能を習得することができる。</li> <li>地理的知識を確実に学習することで、世界の多様性を認識し、変化し続ける社会に対して生徒自ら考え、探究する力を養うことができる。</li> <li>3単位の選択科目として内容・程度・分量のバランスが取られており、指導しやすく、生徒自らも理解しやすい教科書となっている。</li> </ul>

令和5（2023）年度用 二宮書店 教科書・地図帳 ラインナップ



130 二宮 地探703

地理探究

B5判・326頁

大学入学共通テストに対応  
詳しい内容で理解を深める  
地理探究の決定版



130 二宮 地総704

地理総合

世界に学び地域へつなぐ

B5判・246頁

基礎から大学入試まで  
豊富な題材と鮮度ある情報  
地理探究へつながる、  
事例の充実した教科書



130 二宮 地総705

わたしたちの  
地理総合

世界から日本へ

AB判・214頁

ビジュアルにアクティブに  
世界と日本の今を知る66テーマ  
主眼型授業をリードする教科書



130 二宮 地図704

高等地図帳

B5判・166頁

収録数の多い  
世界地図と  
日本地図



130 二宮 地図705

詳解現代地図 最新版

AB判・182頁

350タイトル  
以上の  
豊富な資料図



130 二宮 地図706

基本地図帳

A4判・166頁

ビジュアル  
中心で  
大きな地図



130 二宮 地図707

コンパクト地理総合地図

AB変形判・182頁

新しい判型で  
地理総合対応の  
地図帳